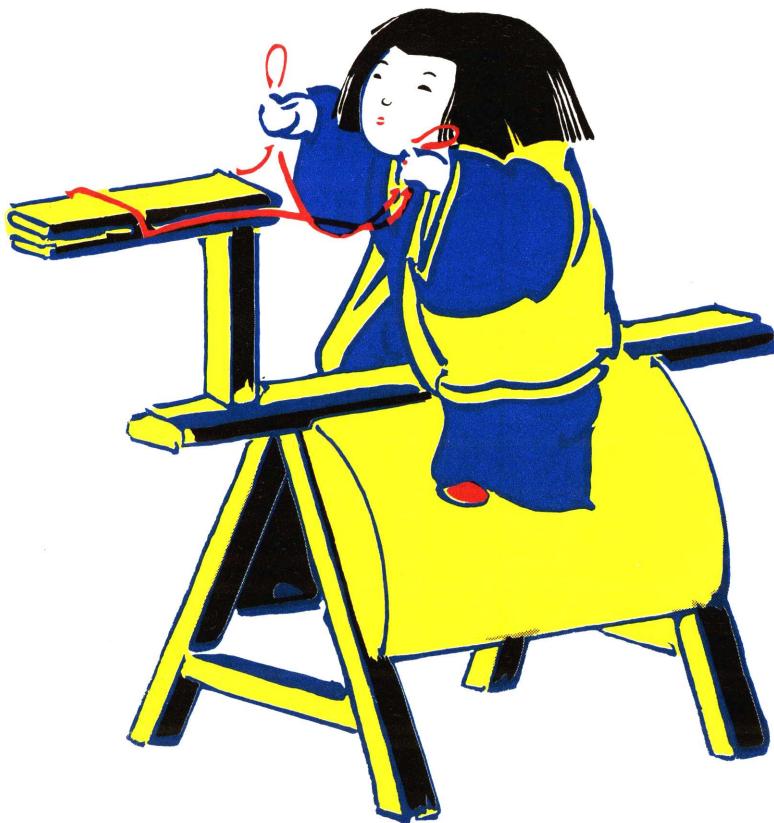


# 幼兒之教育



號七第 號月七 卷二十四第

內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

(五版)

# 改訂 増補 系統的保育案の實際

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 八 錢

初版以來廣く参考の資料させられた本書は、時局下幼兒保育の再認識、特に國民學校の新制に對する用意の必要から到底舊版のまゝに止まるこゝを許されなくなりました。全體に亘る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

## 幼稚園唱歌選集

B列四號五〇頁

定價 金壹圓七拾錢  
送料 金 八 錢

幼兒の教育(月刊)

一ヶ月 金參拾五錢 送料金二錢  
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

東京高等師範學校教授 愛知縣第二高等女學校教諭

板倉贊治先生推獎序文

B 六 判  
函入美裝  
色刷插繪多數

[評好]

# 幼兒の造形教育

定 價 貳 圓  
送 料 五 錢

圖畫工作により皇國民を鍊成せんこする  
正新しい 幼兒の圖畫工作指導書

板倉贊治先生序文の一節 □未文化時代の幼兒達に繪を見せ、繪を描かせるのは、繪を教へるのが目的でなく、繪といふものを借りて、その子供の教育全部、即ち全人教育を始めるのが目的である。その他の手段によつて人間教育をするよりも、特に此時代の幼兒は興味ある繪によつてするのが最も自然で、然も極めて效果的である。(中略)

著者は師範教育に充分な経験を有し、且つ幼兒の爲に強い熱意と徹底する愛と理解をもち、且つ童畫に就いての熱心な研究を遂げた教育實際家であるから、その内容を見るに、實に眞面目な研究の結晶であることが明かである。それ故、學齡直前の幼兒教育に極めて適切であると信ずるのである。従つて、幼兒教育に熱心な親達や、幼稚園の促進達は勿論、國民學校の教師諸君に向つて、敢えて此書を推奨する次第である。

名溪會推薦  
全國書店にあり  
品切の節は興亞書院へ

幼稚園の先生へ

國民學校の先生へ

お母様へ

愛知縣女子師範學校教諭

川口四郎生著

京東座番六〇三六一 替振 院書亞興 社株式 野上木櫻谷八四町下市

八版

東京女子高師教授倉橋惣二生著  
附屬幼稚園主事倉橋惣二生著

▲B6判三百餘頁  
▲定價一圓八十錢  
▲口繪挿繪多數  
▲送料三〇錢

# 幼稚園保育法真諦

- 保育界耆宿の力作
- 現代の保育法原論
- 保育法真諦寫眞帖

(著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として本邦第一の東京女子高師附屬幼稚園主事と文部省社會教育官となり人間味豊かな人格者として定評。士である。本書は現代に於ける最も完備し且系統ある保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者にて著書少く系統ある力作は本書のみ。)

東京女高師教授倉橋惣二生新庄よしこ生共著

國民保育要義

送〇・二〇〇

價三・三〇

A5判四六〇頁

三・八〇

送〇・三〇

其の建物

ちより以上

優秀を

新保育方法

實際實景

寫眞

となし多數之

掲載す

## 用定檢母保

(版) 幼稚園の理論及實際

用保

十

版十二

幼

稚

園

の

理

論

及

實

際

●

教

育

學

學

●

教

育

學

學

●

教

育

學

學

兌發 京會省試株書圖洋東

東京  
京阪

番七三〇一京東(座口替振) 目丁一町保神區田神市京東

番六五五九三阪大(座口替振) 八二一町下之山區東市阪大

八版五版五版五版五版

幼稚

園

圖

史

文

化

醫

童話の話

國民保育要義

方と實例

關寬之著

倉橋惣二先生序

内山憲堂先生著

奈良女高師教授倉橋惣二先生著

内山憲堂先生著

森川正雄先生著

幼稚

園

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

學

幼稚

園

圖

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

幼稚

園

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

學

幼稚

園

圖

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

學

幼稚

園

圖

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

學

幼稚

園

圖

史

文

化

醫

所

教

育

兒

童

心

理

學

法

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

學

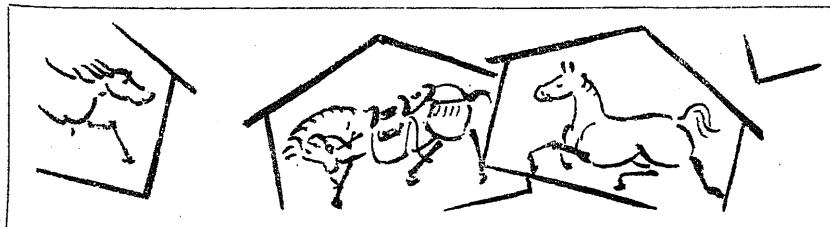
學

學

學

學

# 大東亞戰爭必勝完遂



## 第十七號 第二十四卷 幼兒教育

—(次) 目—

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 戰時國民幼稚園(六)          | 倉橋惣三(二)   |
| 幼稚園託兒所視察記(一)        | 多田鐵雄(二)   |
| 講習上國民學校理數科の實際(その七)  | 堀藏(五)     |
| 夏季幼稚園に於ての注意事項及積極的鍛練 | 藤本久智江子(九) |
| 教養 萬葉に於て日本的感情を見る(七) | 石井庄司(六)   |
| 八・九月の保育             |           |

- |  |              |
|--|--------------|
| 生活訓練                                     | 倉橋惣三(二)      |
| 自由遊戯                                     | 上遠文子(三)      |
| 遊観                                       | 古澤靜子(四)      |
| 談話                                       | 清水光子(三)      |
| 手技                                       | 志村貞子(七)      |
| 誘導保育                                     | 及川ふみ(三)      |
| リズム遊び                                    | 菊池ふじの(三)     |
| 講習上 兒童心理學(六)                             | みさり會音樂部(西)   |
| 幼兒の母                                     | 牛島義友(完)      |
| 月刊「幼兒の母」に就く                              | (四)          |
| 幼兒の母                                     | (四)          |
| 夏の子—幼稚園から—夏の幼兒の家庭生活(倉橋惣三)—子供向きお菜(佐々木理喜子) | —七月の衛生(齊藤文雄) |

# 成銃技手

みどり幼稚園長

森本泉二著

児童書に新しい分野を開拓せる教本。決戦下第一回民練成への意圖を手技と物語と遊び方の同化を以て興味深く盛り、あらゆる意味に於いて一憶勝負に捧げられた名著である。

## 第一輯 防空戰兵器の作り方

頗る美本、箱入、5A判  
寫眞圖解百八十葉入  
一八〇頁、價一・八〇

附 手 技 教 室 十二ヶ月

第一部 防空戰競技の仕方と防空のお話  
第二部 快速爆撃機の仕方と防空のお話  
第三部 軍用貨車、燈下管制のお家等の作り方

一月大角力、軍用貨車、五月西子落し、四月紙萬華鏡、五月龍おどり、  
六月紙双眼鏡、七月七夕祭、八月海水浴、九月兎と鶴さん、十月花傘風車、  
十一月お金入れ、十二月防空戰準備双六等の作り方とお話

## 第二輯 五大海軍艦船作り方

森本泉二著  
||近刊||

第一部 日本の五大海戦記  
(一)日清の役黃海の戦ひ、(二)日露の役日本海大海戦、(三)日米對戰ハワイ  
(四)日英對戰マレー沖大海戦、(五)日對蘭米英戰ベタビヤ・スラバ  
第二部 大海戦、等の海戦夜話  
第三部 艦船及海空軍の作り方  
(一)潜水艦、巡洋艦、航空母艦、潜水母艦、海防艦、砲艦、敷設艦、驅逐艦、  
(二)敵前上陸戦、(三)輪型陣突破戦、(四)夜襲會戦

六一〇七一京東替振番九五三五塚大話電  
社 明 文 区川石小市京東道水〇一の二端道

# 戰 時 國 民 幼 稚 園

挺身の意氣(六)

## 倉 橋 物 想

耳をうつ戰報、胸をさきめかす戰果、われ等はその大いなる意義と效果を思ふと共に、その一つの戰報のうちに聞える、勇敢、勇邁、勇壯の響に心を躍らせる。海鷺の、若鷺の、潛航艇の、驅逐艦の、雲を突き破り、濤を突き潛りゆく勇ましさなくして、この素晴らしい戰果を得られない。殊に、あの特殊潛航艇、あの若鷺の群、それは勇ましいいふよりも、たゞ瞳目するばかりである。何にか瞳目する。その挺身の意氣にこそ感嘆し、瞳目する。單なる決意、單なる斷行、それだけに止まらない。身を以てする、自ら挺んでる、その颶爽の意氣、これこそ實に、一彈鐵壁を穿ち、一發巨體を屠る力である。假りに貯ふるに千鈞の勇あり、漲きるに萬丈の慨あり。しかし、挺身の意氣なくして、何んで此の電擊の勝利を擧げるこゝが出來ようや。控ふるに百萬の軍あり、備ふるに十萬の兵車あり。何んでも、一人身を挺んで進むこゝがなかなかつたら、何んで此の先機の效果を擧げることが出來よう。

挺身こそは勇の最も勇なるものである。他と共に進むのではない。況んや他におくれて立つのではなく、他に引きづられて従ふのではない。促されてゞもない。況んや命ぜられてゞはない。實に身を以てするのである。自己を以て投ずるのである。その意氣や、激刺として逆るの勢である。しかも猪突にあらず、盲進にあらず、反動にあらず、發作にあらず、千慮速かに成り、一斷忽ち決し、我れそのものが箭となり彈こなつて飛び出すのである。一點の躊躇が無い。一絲の逡巡が無い。一沫の狐疑が無い。無い。無い。何んも無い。たゞ身を以てするの勇だけがあるのである。

大國民性は沈著であり、泰然であり、自若である。おほきかに、おうやうに、盛りに發せず、急に走らず、軽々しく激せず、容易に立たない。その最要の特性は、ひろさにあり、包むにあり、敢て迫ることをしない。しかしまだ、大國民は決して老國民ではない。況んや惰國民ではない。それは常に若さをもつ國民である。新鮮を失はない國民である。而して、大東亞戰爭のこの華々しい戰果は、この國民的若さと新鮮さとの顯現發露でないものはない。しかも、この國民的若さと新鮮さを永遠に傳へて、挺身突進の意氣を斷えず汪溢せしめる爲に、幼兒教育の重要な責任のあることを忘れてはならぬ。眞の教育は國民をたえず若くする。その教育は、最も新鮮なる幼兒の生活から始められねばならぬ。

# 幼稚園託児所視察記

(二)

文部省教育調査部調査課

多 田 鐵 雄

今度の二つの視察の旅に、これまでの各處での所見を加へて總括的に少し述べさせていただけば、先づ保育一般について云へば、こゝ一二年來、幼兒の保健に特に留意する傾向、躰を重んじねばならぬとする傾向が著しく目に映つた。これは教育審議會の答申にも在ることで極めて結構な、大事な事であるが、その實踐たるも甚だ難かしい問題であることをつくづく見せられたのである。一例が、禁養給食にしても、禁養價と同時に個々人の禁養攝取能力を考へなければその效果はあがらない。ツベルクリン反應も實は少くとも一年に二回は行はなければ所期の目的は果せない云はれる。一方給食によらずとも偏食矯正の方法もあるし、醫師の手を必ず煩はさなくとも異狀早期發見は可能である。躰にても往々幼兒に無理な要求をしてゐる時がある。かうした實例は一々擧げる要しないであらう。たゞ問題はそこまで深く省察して経験を生かして行くか云ふこと、そこまで外觀をかざらずに無垢な氣持で保育してゐるか云ふ點にある。

從來までの幼兒保育の型を分ける二つになる。一つは舊株墨守型であり、一つは一手輸入型である。明治初期のフレーベル恩物式を金科玉條にしてゐるかと思へば、小學校の先生が小學校式を幼稚園に移したのをそのまま、幾代も後生大事に傳統に生きてゐるものがある。一方は、それ人形芝居だとか云へば田舎も都會も競つてフレーベル館から舞臺を買つて備へ、今や埃にうづもさせてゐる處もある。唱歌を選ぶにも、大正幼年唱歌集が出た、赤い鳥童謡歌集が出た、云つた風で曲の適不適、歌詞の幼兒に對する適不適は二の次にして新らしいが故に飛びつく。手技に思ひ付きな試みが誌上に紹介されば、土地の情況におかひなく取入れる。かうした態度が案外に大きな作用を働いて保育が可成歪められてゐる云はれる節のないでもない現状である。これには保姆講習會も從來のやうな恣意的なものではなく、もつゞ地方の實情に即して行届いた配慮のもとに企てられるべきであらうし、又幼稚園専任の視學でも出來れば、その人の一寸した忠言でここ足りる場合も少くない。

いやうである。さもかくもこの二つの型を止揚すべく、保育界は正に反省すべき秋である。私は考へてゐる。経費が無い、人手が無いと云ひながら、鵜呑みに他を真似すに工夫を努力によつていいくらでも現状を夫々向上させることが出来るのではないか私には見えたのである。

前々から云はれてゐることであるが、幼稚園と託児所、府県學務課と社會課、文部省と厚生省の關係が此の度もあからさまに見られた。地方に於ては必要以上に幼稚園と託児所が對立してゐる所があつた。そうしたところでは私は幼稚園に向つては「狹義の意味に於ける保育は元より、一般に徒らに保育時間を延長する必要はないが、家庭の希望を看取して、日中一部の児童の受託に應ずる用意と心構へは持つてゐる要があらう。又大體良い子供ばかりで、家庭の注意も大體届いてゐる状態で保育がよく行つてゐるからさて、それだけでは未だ自慢は出来ぬ。四五人の手のつけられぬ惡癖の子供、いつも病氣を背負つて來る不潔な子供が入つて來ても園の保育と秩序を亂さず處理して行ける時、初めて模範的な幼稚園と云へる」と云ひ、託児所に向つては「今在る幼稚園の缺點を擧げて、在るべき幼稚園を否定することのないやうに。託児所が児童預り所から一步前進すれば、それが即ち幼稚園であるべきだ」と云ふのであつた。

それよりも悪いことは學務課と社會課が對立してゐるところである。そこでは實質的に幼稚園と託児所と殆んど相違のない場合でも、一方が他方を抑壓乃至驅逐しようとしてゐる。かゝることが如何に寒心すべき結果を招來するかは誰にも明らかなることであらう。反之、兩課が連絡して協調してゐる府県では保育會も研究會も凡て共同であり、足並も揃つて、從つて貢獻する力も大きい。

文部省が幼稚園令を公布して置きながら、實際に指導監督の方策をすゝめず、また經濟的補助も與へないところから妙な現象が生じてゐる一例を示さう。其縣の某町には東部に私立甲託児所、西部に私立乙幼稚園と二つの保育施設がある。甲は厚生省より年二六〇圓、縣より一四二圓、軍人援護會支部より一四七圓、計五四九圓の補助を受け、一ヶ月幼児一人當り五十錢近くの補助となつてゐるが、甲はその他の児童委託料として月九十錢を取り、更に主に父兄を保育事業後援會に加入せしめ毎月一口二十錢以上を醸出せしめ平均幼児一人當り二口、即ち四十錢を受け、結局一圓八十錢で児童を保育してゐるのに對し、乙は保育料一圓、母の會費三十錢の計一圓三十錢で児童を保育している。乙は幼稚園令によつてゐる故に一定の廣さの保育室と、一定の廣さの運動場を持たねばならぬので、それだけで一杯で内的施設は何も出來てゐない。又母の會費の使途等も

自ら限定されてゐるので經營も仲々困難のやうである。甲は自由に狭き保育室を適當に利用し、狭い運動場を種々の設備で補つてゐる。同額の費用で經營するならば後者の如くする方が合理的なことは自明である。それ故に甲は隆盛の勢を示し、乙は衰退の陰を宿してゐたのである。

こゝに於ても厚生省が幼児保護を自分の仕事だとして獨善的に進むことをやめると共に、文部省も本腰を入れて幼児保育を考へねばならぬことが痛感されるのである。

次にクリスト教幼稚園の問題であるが、某縣に於ては學務部からの通牒によつて、幼稚園が宗教的儀式、禮拜、祈禱、讀美歌等を課してはならぬことになつた。この處置に對して一部から種々の見解が述べられてゐるが、幼児保育も亦疑ひもなく教育である限り、國民教育でなければならぬし、日本的教育でなければならぬことは當然である。過去に於けるクリスト教主義幼稚園の我が國の保育界に盡した功績は充分認められるべきであるが、その弊害も今や斷然排除されねばならない事態に立ち至つたことも事實である。幾つかのクリスト教主義幼稚園が今やこの問題について深く反省して自らを更新せんとしている努力を私は見たのであるが、當事者は「宗教教育を行ふべからず」とある訓令を字句的に考へる前に、日本人として、我が國の國體と歴史を深く省み、と共に二千年前に誕生したクリスト教が如何

なる功罪を歐洲諸國に於て果して來たかの歴史を直視し、國家のものである幼児の保育をなすに當つては、虛心拍懐に先づ如何であらねばならぬかを考へるべきであらう。

最後に、幼稚園と託児所の統一の問題であるが、その實際を見ての所論は他日機會を得て述べて見たいと思つてゐるが、こゝでは今度の視察に於て益々その要を痛感したことを云ふことを述べるにこゝめて置きたい。私はこの待望の統一が何時到來するかについての見透しを未だ持てない。たゞ一部の私立幼稚園が危惧する「就學前保育施設が統一されれて國民幼稚園的なものになれば、私立は一體どうなるか」云ふ間に對しては、私立幼稚園設立者も保育從事者も齊々云ふ間に對しては、私立幼稚園設立者も保育從事者も齊しく幼児保育の重要性に鑑みて、これまで國家が爲し得ないところを進んでこの事業に乗出してくれたものであつて見れば、一旦の場合には公立の一保母として斯界に貢獻する覺悟はつねに持たれてゐることゝ思はれるから、問題はたゞひそうならなくとも解決は案外簡単ではないかと主張したいのである。（宣戰布告の感激の内に聞きながら。十二月八日記）

# 國民學校理數科の實際（その七）

東京女子高等師範學校附屬國民學校主事

堺七藏

## 一、

理數科理科の指導に於ても、理數科指導上の留意事項を常に念頭に置くべきことは勿論であります、更に理數科理科の特色を十分發揮するためには次の諸點に留意せねばなりません。

その第一は自然に親しみ、自然より直接に學ぶ態度を養ふこころであります。

既に屢々述べたやうに、理科は既成の自然科學的體系に従つて既成の觀念・知識・技能を授けるものではなく、自然のありのまゝの姿をつかみ、理法を追求することの修練をさせるものであります。それが爲めには、自然に親しみ、自然を愛好し、自然と和する心が養はれなくてはなりません。自然に親しみ、自然を愛好するやうになりませんし、自然と和する心が養はれるのが常であります。自然に親しまなくては、眞に自然を愛好するやうにもなりませんし、自然と和

する心も養はれないのであります。特に低學年の理科即ち自然の觀察に於ては、自然に親しませ、自然の中で遊ばせつゝ自然に對する眼を開かせ、考察の初步を指導することを本體となすのであります。自然の觀察に於て、既成の觀念、知識を教師が説明して兒童に記憶させるが如きこころをなすのは、以ての外の沙汰といはねばなりません。大人のもつてゐる觀念や知識をぎんに多く取次いでも、眞の觀念、知識を得しめるこことは不可能であります。觀念・知識・技能は自然に親しみ自然から直接に學ぶことによつて獲得するのでなくしては眞に身についたものとはならないのであります。

「高度國防國家を建設するが爲には、國民學校に於て科學教育を大に振興せねばならぬ。科學教育を振興するには、科學的知識を十分授けねばならぬ」など、何でも科學に関する知識、殊に國防に關する難解な知識を多く教授するこ

こに努力するものがありますが、これは大きな誤りであります。高等國防國家を建設するが爲には、國民學校に於て科學教育を大に振興せねばならぬといふことは誠に妥當であります。しかし科學教育を振興するには科學的知識を十分授けねばならぬといふ説は妥當を缺くものであります。科學的知識をきんに多く記憶してゐても、實際の國民生活には役立たないのであります。眞に身についた知識技能でなくしては國運の發展に貢獻することが出来ないのであります。そして眞に身についた知識技能を得しめ、國民生活に役立つ知能を啓培するが爲には、必ず自然に親しみ、自然を愛好し、自然と和する心を基調とし、自然から直接に學ぶことを努めしなればなりません。

やゝもするべく、理科は、自然を冷かに解剖しこれを征服するのが任務であるかのやうに考へられ易いのであります。勿論、理科は自然の神祕をさぐらうとするものではあるが、それはさうまでも自然に親しみ、自然を愛好する心に發しなくてはならないのであります。又、理科は自然に人工を加へて、利用厚生の方途を講ずるものではあるが、それはさうまでも自然と和し、自然をよりよく生かす心に基づかなくてはならないのであります。

第二には、植物の栽培、動物の飼育をなさしめ、生物愛育の念に培ふることは、農山村の兒童は勿論、都市の兒童にも緊要

自然に親しみ、自然より直接に學ぶためには、自ら植物を栽培し、動物を飼育することが必要であります。自分で植物を栽培し、動物を飼育すれば、その植物、動物に愛著を感じ、その形態や生態等にもおのづから注意しなくてはならないやうになり、手入れや世話を進んでするやうになります。即ち考察・處理の態度方法が身について来るのです。

又、栽培・飼育は相當長期に亘つて努力して、始めてその成果が見られるのであるから、これによつて持久的態度が養はれるのであります。

栽培・飼育は、かやうな意味で重要なだけでなく、農業を營むための基礎となるものであります。國民一般がこの重要な仕事に體験をもつこいふことは、極めて必要なことであります。農業は無論、生産が目的であるが、この生産は、自然にはぐくまれて伸びて行く命をいつくしみ、すぐく伸びさうとする心に發するものであります。かやうな心を持つて生産する、生産されたものゝ眞の價値がわかり、それを大切にし、正しく使ふ態度が生じて來るのであります。このことは生産に從事するものは勿論、消費する立場にあるものゝ一般にもつてゐなければならぬ心掛であります。故に植物を栽培し動物を飼育して生物愛育の念に培ふことは、農山村の兒童は勿論、都市の兒童にも緊要

なこゝであります。而してかやうな心を養ふこゝは低學年から絶えず意を用ひなくてはならないのであります。勿論低學年兒童には栽培も飼育も疎なこゝが出来ないものであるが出來ないほゞ是等の作業を行はせることが肝要なのであります。また都市の學校では植物の栽培でも動物の飼育でも之を實施せしめるこゝは頗る困難であります。しかし困難であるほゞ、栽培・飼育をなさしめねばならぬのであります。栽培・飼育の完全に行はれるに越したこゝはないが、不

充分不完全でも、それぐ工夫して兒童に栽培・飼育を作業させるやうに努めねばなりません。勿論栽培・飼育の成果のよいに越したこゝはないが、作業の過程を重視せねばなりません。

第三には科學的技能の修練に努め、日常生活に實踐されるやうに指導することが緊要であります。

これは、理數科一般について注意すべき事項の最も重要なもののゝ一であるが、理科に於ては、特にこの點に十分の注意を拂はなくてはならないのであります。理科で學習したことこゝが理科の時間だけの知識では、何等の價値もなく、また知識だけに終るやうではならないのであります。例へば理科に於ては、人體生理に關する事項を取扱ふのであるが、單に生理衛生の知識を與へるのでなく、日常の生活を衛生的に營むやうな習慣をつけ、國民體位の向上を圖るやう

に指導しなくてはならないのであります。それで國民學校施行規則第七條には、「人體生理に關聯して日常の衛生及び國民保健の必要なもの所以を知らしめ體鍛錬科と相待ちて其の實踐に力めしむべし」とあります。

また、機械・器具の取扱に關する技能は、觀察・實驗、その他の作業に必要なものであるが、國民文化の進むにつれて、國民生活の實際に極めて重要なものとなつて來たのであります。殊に國防上からいつて、國民一般が機械・器具の取扱に關する技能を修練して置くこゝは、一刻もゆるがせに出來ないこゝろであります。従つて機械・器具に就ては、その構造・機能について理解を與へるだけではなく、これに慣れ親しませ、その取扱を身につけさせ、尙ほ進んでは改良の工夫まで行はせるやうに指導しなくてはならないのであります。このこゝは、國民學校令施行規則第七條中に、「藝能科工作と相俟ちて機械・器具の取扱に慣れしめ科學的技能の修練に力めしむべし」とあります。第四には發見・創造の喜びを感じさせ、發見し、創造する態度を養ふに努めるこゝが緊要であります。

これは合理創造の精神を涵養する理數科の根本目的の一であつて、理科の指導に當つては寸時も忘れてならない事項であります。それで觀察・實驗では新しいものを發見し、或は創造することを目標として、兒童をして活動せしめ、

發見、創造の喜びを感じさせねばなりません。また植物の栽培、動物の飼育に於ても常に發見、創造の態度を以て作業させ、生物愛育の念を養ひ、天地の化育創造に參する喜びを感じさせねばなりません。更に日常生活を秩序正しくし、これを發展させるやうに指導して新なる生活を創造せらるやうに力めねばなりません。その他、こんな小さな事柄であつても、児童がみづから見出すやうに仕向け、また工夫考案するやうに仕向けることが緊要であります。凡て發見、創造はその場、その場の思ひつきで出来るものではありません。倦まずたゆまず努力し、失敗してはその経験に省み新たな工夫考案をなすのでなくては成功しないのであります。従つて常に發見創造に精進する持久的な態度を養ふこゝに努むべきであります。

第五、児童の疑問は児童自ら解決するやうに導かねばなりません。児童の疑問は頗る多く、その中にはちよつこゝた暗示を與へ、或は少しの経験を積ませれば、容易に児童自身で解決し得るもののが少くないのであります。これを教師が簡単に片づけてしまふのは、研究心を盛にする所以ではありません。児童自ら觀察し實驗して解決するやうに導くこゝが肝要であります。

児童の疑問の中には、児童の手におへないものも少なくありません。その場合には、教師も一緒になつて解決する

こいふ氣持で指導せねばなりません。児童にわかり易いやうに安つぽく説明するのは、すべての物がわかり切つてゐるかの如き感じをもたせ、児童の探究心を摘取るだけではなく、嘘を教へるこゝになる場合さへあります。それで教師も一緒にかつて觀察したり實驗したりして児童が自ら解決するやうに導くべきであります。児童の疑問の中には、児童に理解させるこゝが困難なものも少くありません。かやうなものに對しては真正面から解決を與へようとするよりも、疑問の儘で持越させ、向學心を起させるやうに努める方がよいのであります。また児童の疑問には、教師に分らないものが多くあり、現在の自然科學で解決の出來てるないものもあります。前者では調査の上で適當に指導せねばなりません。ごまかすが如き態度をこつてはなりません。

調査してもわからず現在の自然科學でも解決してゐない場合には將來大に研究せられねばならぬこゝを知らせ、眞理を追求せねばならぬこゝを感じしめるやうに導くべきであります。

# 夏季幼稚園に於ての

## 注意事項及積極的鍛錬

大阪市立汎愛幼稚園長 藤本ツギ

新しく入園した幼児も園生活に漸く馴れて來た今日此の頃、風薰る初夏が爽やかに訪れた。庭の一隅に植ゑた一本の柳さへ軟い緑の色美しく今はもうすっかり若葉だ。氣分は晴れる、空ははれる、と言ひたいところ。今に梅雨がやつて来る。鬱陶しい日が幾日も續くこゝであらう。子供はこゝもするこ風邪をひき腸をこはす。近頃のやうに甘いものが不足して居るこお腹の故障は幾分助かるがそれでも用心が肝要である。

毎朝幼兒を園門に出迎へて一番に顔色を見る。ジメ／＼した薄ら寒い様な日なのに割合に薄着で皮膚には粟粒が浮かんでゐる子も見受ける。これは薄着過ぎる、ミショミーズ一枚を家に取りにやる。夏服はコレ／＼こ定め込んで天候こ一向お構ひなしのうつかり者の親も多勢の中には居る。「お母さん行つて参ります」挨拶せられる聲を聞き流し、

て御自分のお仕事にのみ追ひ廻されて居る家では、つひ出て行く子供の顔さへ見やらずに過す事が間々ある。子供の顔に、皮膚に、赤いブツ／＼が出て眼も少々うるんで氣分もよい方ではないが、幼兒は「明日も亦元氣にいらつしゃい」とゆびきりして下さつた先生のお言葉に勢が出て、幼稚園に行かなければならぬものとして元氣さうに登園する。ニコ／＼こして早や出迎へて居て下さる先生、「お早うございます」の聲もそ／＼そ／＼にその袖に飛びつく。大まかに、豊かに、悦びに満ちて此の子を迎へた先生ではあるが子供の顔の赤い斑點を見逃さない。〇〇ちゃん、一寸お見せ、さ洋服の胸を解いて肌を検査する。矢張り身體にもブツ／＼が出来て居る。お醫者様でない保姆は、多分麻疹だらうこ想像はするが念の爲園醫の診斷を受けに行かせる。麻疹のブツ／＼ミ蕁麻疹のブツ／＼この見分けに一寸困る時もある

るが、數多くさうした事に當つてみると何時か知らぬ間に判断が誤らぬ様になつて行く。麻疹三診断されゝば早速家庭に追ひ返して他園児への傳染が免れ得たものと安堵する。

朝の集会の時一緒に遊戯しながら○ちゃんの元氣の無いのに気がつく。お食事の時御飯の食べ方がいつもより進まぬ事を發見して身體の調子の悪い様子を手紙して一寸早目に家に歸らせる。幼稚園と家庭との連絡がよく行つて居るならば、尋麻疹等出來てゐる時はお母さんからその症狀に対する言葉なり添手紙なりがある筈である。差障りのない腫物にしても平常でない子供を登園させるのだから家庭の母から園の母である保母へ引継ぎがある様躊躇度いものだ。お腹がゆるんで居ても顔色に書いてない事がある、保母は何時もの調子と心得て保育するから時にはひくじりが起きる、異常を知つて居れば注意の向け様もあるものだ、子供乍らにしくじりを獨りで始末しやうとして、そこらあたりを汚し廻り大騒ぎを演じて朝の大切な一、二時間が一人の子供のために丸づぶれとなつて了ふ。夜更しをした翌朝は寝不足のために子供ながらにイラ／＼した氣分になる事もある、左様な時には保母が仲間入りをしてなるべく他人との衝突を避けて静に遊ぶ様に扱ひ度い。斯様な場合保育時間を短縮するのも一法である。

雨上りのよい天氣の日、プール遊びの用意の爲にお砂場の砂を他へ運ぶお仕事を始める。子供は毬やスコップで遊ぶものとのみ定め込んで居た舊體制觀から脱して子供も子供相當の力遊びをさせてよい。小さいバケツにお砂を入れる者、これを運ぶ者等、分擔をきめて幾日も連續的に手順よく總がかりで此の作業をする。根氣よくする者と飽きつぱい子と、力のある子と力無し、要領のよい子と悪い子との見分けがつく。餘り砂を入れ過ぎて貰つて重くて難儀をしてゐる時傍に居た子が「僕がかいて上げやう」と親切を行ふ、保母は此の優しい姿を微笑みつゝ見逃さない。誰もお手傳ひの幼児がない時は保母が手傳つて、幼児をして助けられる事から來る有難さの實感を味はせる。繪本やお話を聞く親切の説明よりは體験を與へる方が一生を支配する力強さにならうと保母自身も嬉しくなる。

○○先生も御一緒に運んでいらしやる。○○先生も一生懸命だ。一つ仕事に幼児も保母も小使も總力を擧げてするといふ環境にこどもを置く事は、總親和の魂を培ふことになる。物資不足の折柄にも拘らず、こんなに暖く暑いまでになつて居るので短靴下を沓いてゐる幼児がある。幼児は遊びに熱中して來る事暑苦しくなつてこれを脱ぎ棄てゝ、然も片脚を散らかして了ふ。夏と素足はつきものだ、時に幼児の靴をみな脱がせてお砂場で思ふ存分砂を踏ませ

る、砂場から出させて今度は玉砂利の上を歩かせる。少々

痛いが面白い、再び砂場に入らせる。脚の裏の感触が違ふ、出たり入ったりたゞそれだけの遊びで興味は津々。これを毎日の様に繰り返すならば扁平足は自然に治る。マットの上、板間、板石の上、ご物質の違ふ處から来る感じを興へるものも面白い。科學的に扱ふごいふ事はかうした遊びからも生れる。納屋からトタンの板を持ち出し、粘土を伸べた上や、枯草の上も踏ませて見たくなる。亦スコップを木琴の様に並べてその上をソロ～く歩かせれば丸味から来る脚裏の違つた感じがする。斯く考へかく行つて見るご次から次へご方法が生れ出る。

遊び草臥れるご何なく元氣が抜ける。所謂疲勞するのだ、暑くなつても午後三時迄遊ばせやうとするご一時頃には階上の疊敷室に誘導して毛布の上に敷布を敷き、その上に恰度魚櫛に刺した魚のやうに幼兒を仰向けに臥させて脚からお腹にも薄い毛布を掛けて休息をさせる、眼を閉ぢ聲を出さぬ様約束するご、スヤ～くご深い眠りにまで入る。年少兒なごは三十分も寝込んで起すのに骨が折れる時さへある。深い眠りにつく迄もなく一日の中一度は背を伸ばす爲に、平常でも平たい處に仰向けに十分間位は安靜にさせ度い。

保姆も幼兒のお手本になつて眼をつむるごよい、確かに

### 疲勞は恢復する。

活動—疲勞—恢復—快活—活動—疲勞……。活動の次に疲勞が必ず來るものごは限らず、休息必ず疲勞恢復ごも云へない。氣分轉換も休息になり疲勞の恢復ごなる事がある。疊敷の室が無いならば、床上に真座を敷いて仰臥させてもよいし、机を寢臺だご云つて扱つても爲し得る。

力一杯勢一杯に遊んで而も實用的なのは清掃遊びの様に思はれる。大人用の雑巾棒を扱つてお遊戯場全體を拭ふるが、幼兒はお掃除をするごいふよりも雑巾の濡れあるが、幼兒はお掃除をするごいふよりも雑巾の濡れあるが鮮やかにつくのに興味を持つて、一番線、二番線ご電車遊びをして居る積りで活動を続ける。時には兩方から棒がつき合つてさうにも動かぬ事がある。左様な時は一生懸命、さちらも後へ退かうとはせぬ、相手ご同等の力量ならば何時までも頑張り続けた舉句「アッハッハ」ご満足の笑ひが出てやつご横へ避け合ふ、力の満足を得たのであらう。これは紙を剪つたり貼り付けたりする静かな遊びご事が違ふ。正に全心全力の活動である。而もこの遊びの中に清潔ご勤勞の習慣を養ひ、亦愛園の情も培はれて行くごとを思へば一石二鳥の感がある。

暑くなつたのに前掛をきちんとさつけて下着上着も正しく、公式禮装ご云つた調子の服装で登園する幼兒がある、遊びぬ先から汗ばんで居るのは無駄なごとだ、斯様な事は

身體の爲にはならぬ。一日母姊會を開いて、廢物利用を考慮に入れた夏の簡單服の作り方を講習し、女兒は有り合せた模様布等で、シニーズにポケット、バンド代用の腰紐を付けた程度のものを、男兒には胸や脊を充分明けた涼しい上着に軽いズボンといつた出来るだけ軽快な服装で登園させる様打合せて置く。その序に水遊び用、整容用、午睡用等のために、タオル、クロース、下着、天瓜粉、櫛(男兒不用)等を入れた袋を毎日持參させる様約束して置く、午睡の後汗ばんで居る時は下着を着替へさせる。

「皮膚の鍛練真夏から」母親にも心得させて水遊び等もさせらるが、お腹を水に浸す事は私の園では差控へてゐる。プール遊びも、午前の涼しい時は避けて水を運んだり、水鉢砲遊び等盛に行はせる。

「フルに全身を浸すならば先づ便用をさせ、鼻汁をかませ、耳に綿をつめて五分間位の程度でいいと思はれる。」

一ルから上つてお風呂や盥のお湯で身體を流すと皮膚がサラッとするがそれが行へない場合は、ホースの下を潛らせると皮膚が清淨になり、とても面白がる、女兒にはハンカチーフを洗はせたり、手旗や小さいカーテン等の洗濯遊びをさせるの勤勞の習慣をも養ひ得る。

暑い時に汗を出す遊びも亦よい。木蔭でお相撲をさせて頑張りのいゝ子にも育て上げやう。又夏の植物中主なるものを幼兒と共に栽培し旺盛なる生育の有様を觀察させるこことは必要である。殊に各自一鉢宛植ゑた朝顔の世話を日々責任を持つて樂しみつゝさせる。活動の後には手足は勿論お顔も洗はせて衛生的な躰を充分させて歸らせる事にする。

日本の國は恵み多い四季があつて實に有難い、事情が許す限り近郊の山間や瀬邊に日歸り移住を行ひ、園内でも充分夏の歡びをこり入れて、保育の高潮を期し度い。

## 東京市番町幼稚園 德久智江子

一寸動いても汗ばむ様な此の頃、年々再々同じ事ながら「暑い時の幼稚園」に於ける心づかひをぶりかへつておく事も又必要であると思ふ。  
設備の方面、出来るだけすがゝしい感じを幼兒が受け

る様に、掃除も小ぎつぱりと、清潔に、整頓しておきたいものと思ふ。  
室内は常に風通しよく、窓を十分に開いて、仕事の際の直射光線を避ける爲に、カーテンも必ず用意したい。

砂場の上には、藤或はあけび棚等が出来て居て、適當に  
よい木蔭を作つて居る事と思ふが、無い場合は、簾で日よ  
けをしてほしいし、木立があつたら、其の木蔭で遊べる様  
に工夫する事も必要である。

又幼兒は非常に水遊びを好むので、プールがあれば其の  
掃除、水遊び用具をこゝのへる。プールの無い場合は、大き  
きなたひの二つ三つもあつて舟を浮したり水鐵砲をした  
り存分に水遊びが出来る様にしてやりたいものと思ふ。  
汗を出すので、お遊びの後さつぱり顔を洗ふ洗面器、  
身體方面 夏は何といつても、身體方面的注意が先づ第  
一必要であらう。

幼兒の遊び状態に絶えず注意する事、だる相な様な事は  
ないか、あくびはしてゐないか、いつもさ同じ元氣さで居  
るかを常に注意して居て、幼兒の苦痛を訴へる前に發見す  
る様に心掛ける事、發見した場合には早くに適當な方法で  
手當をし、家に送り届ける事。疫病等の場合では、初めに  
手當をしたかしないか、一命にかかる場合がある。但し  
保母だけでなく必ず醫者ご相談の上で行ふ事が必要であ  
る。

外で遊ぶ時は帽子を忘れずに。存分に戸外で遊ばせたい  
時であるが、長い時間頭をてりつけられる様な事の無い様

に、  
手、足を特に清潔にする様心がける。汗と兩方で兎角不  
潔になり易い手足は、平素より特によく洗ふ習慣を養ひた  
い。

汗をよく拭ふ、手、足の方とも關聯して来るが、汗はよ  
く拭ふ様にさせ、力一ぱい遊んで汗を出した場合は、顔を  
洗つて、さつぱりさする様にしてやりたい。それにはエプロ  
ンにつけてある半カチでは充分でないので、出来たら手  
拭を一本づゝ持たせて、それで拭ふ様にする。日々其の手  
拭を清潔にしておいてやるのは保母の仕事の一つ

服装は、毎日すつかり取替へて洗へる様な簡単な服装、  
思ふ存分手や足を日にあてる事の出来る様な物にして、薄  
着の習慣を是非夏からする様に、家庭とも連絡する事が必  
要である。

保育の方面 夏は出来るだけ室内よりも、外を利用する  
事を考へて木蔭でのお話、藤棚の下での粘土製作といふ様  
にしたいと思ふ。

然もそれがあまり長時間にわたる事の無い様、寒い時よ  
りも一つの事の時間を短くしてやる事が必要である。そし  
て朝の涼しい中に、製作等を行つて、日盛りは水遊び、砂  
場遊び等で存分に遊ばせる様にしてほしいと思ふ。  
夏は實に豊富な自然に恵まれて居る時である。野菜、果

物、花、蟲、雷、夕立、雲、等々、幼兒の身近に觀察させ得る物が實に澤山あるから、出来るだけそれ等に親しませる事が必要であらう。朝涼の中に、朝顔の手入れ野菜物の水やり、飼育動物の世話等も、幼兒と共にやりたいものと思ふ。

身體方面の事是最も密接な關係があるが、水遊び、特にプール遊びについては十分の注意を行ふ必要があると思ふ。

前以つて身體検査を行ひ、マントー氏反應で陽性の者、養護を要する者、眼疾、濕疹のある者、尿檢の結果故障のある者は之れをさけさせる。プールには入る前にはシャワーワーで體をよく洗ひ、清潔にすると共に急に冷い水には入る事の急な變化をさける。又體操も行つてから入れる。水中ではきはめて少時間(五分位)入れて十分位休ませる様にして全體で三十分以内に上の様にしたいと思ふ。プールから出て後は、よく拭つて早く着物を着る事、シッカロールをつけ點眼する事も忘れぬ様に、又食前間際及び食後すぐには入れない事は申す迄もない。

七月は月の半過ぎから夏休みには入る所があるので、自然に夏休みの事も連絡して考へておく必要があると思ふ。夏休みは、幼兒に之つて、之こまでも樂しいものであるが、然し我まゝ勝手を許されてよい時ではない。さうかする共に、

折角出来た縫が、夏休み中に中斷され、又はこわされてしまふ事があるから、よく家庭と連絡をして、平素幼稚園での縫をますく活用する様にしていただきたいと思ふ。夏休み中の帖面の様な物を作り、生活訓練、製作に対する指針、唱歌等を適當に盛り込んで、幼兒の遊びの材料にもなり、お母様方への一つの指針とするのもよいと思ふ。又生活表(別表)の様なのを作り、日々の事を幼兒に記入させたりするのも面白い。但し此の場合、必ずそれが、幼兒の重荷を感じる事の無い様内容其の他に注意する事を忘れない様にしたい。夏休みは平素よりも、兩親と郷里へ歸るとか、旅行をする機会も多いので、子供には更に又興味深い色々の觀察が得られる事と思ふ。

夏休みは、之こかで動かない大きい網をぐつこ引きしめながら思ひ切つて其の中で子供を自由に動かさせて居る様にごお母様方にも願ふわけである。

健 康 生 活 表

要 項 八 月 日 附 曜 日	ハヤオキ (六時) 	カボアラヒ ハミガキ 	イタダクマヘノ オテアラヒ 	オヤツハ ードケ 	ハヤオ (7時) 	一日一回 カナラズ オツウジノ アルマウニ イタシマセウ
1(金)						
2(土)						
3(日)						
4(月)						
5(火)						
6(水)						
7(木)						
8(金)						
9(土)						
10(日)						
11(月)						
12(火)						
13(水)						
14(木)						
15(金)						
16(土)						
17(日)						
18(月)						
19(火)						
20(水)						
21(木)						
22(金)						
23(土)						
24(日)						
25(月)						
26(火)						
27(水)						
28(木)						
29(金)						
30(土)						
31(日)						
◎ ハ リツセイ	◎ ○ ×	◎ ○ ×	◎ ○ ×	◎ ○ ×	◎ ○ ×	◎ ○ ×

モ  
ー

# 萬葉に於て日本的感情を見る (七)

東京女子高等師範學校教授 石井庄司

## 五、大君の命かしこみ

萬葉集卷三の中程に、田口益人大夫といふ人が上野の國司に任せられて、赴任の途中、駿河國の清見が埼で詠んだといふ歌が一首出て居ります。

蘆原の清見の埼の三保の浦のゆだけき見つつつ物念もなし

晝見れば飽かぬ田児の浦大君の命かしこみ夜見つるかも

田口益人の傳記は、よくわかりませんが、續日本紀卷第三、

文武天皇の慶雲元年正月七日の條に、從六位下田口朝臣益人（ひのとし）が從五位下になつたことが記されて居ります。また同卷

第四、元明天皇の和銅元年三月十三日のところには、從五

位上田口朝臣益人（ひのとし）を上野の守（しゆ）として、

萬葉集の方では年代はよくわかりませんが、かやうに續日本紀

を見ますと、田口益人が上野の國司に任せられたのは和銅

元年即ち今から千二百三十四年前のことになります。それ

から萬葉集では「上野國司」とあり守か介か様かよくわかり

ませんが、續日本紀によればはつきり國守であることもわ

かります。

都を出發して、東海道を下り、下野國に赴く途中詠んだものであります。第一首は、今の興津のあたりから三保の松原の海邊のゆつたりとした光景に眺め入つた作であり

ます。あこの一首は、嚴密には興津を過ぎてからの作と思はれます。書間に思ふ存分眺めても飽くことのない田児の

浦のよい景色を、大君の命をかしこみ、夜に見るこゝであるこいふ意味であります。ここで注意したいのは、「大君の

命かしこみ」といふ言葉であります。詔を受けて、職を國守に任せられた者は、成るべく早く任地に下り、職務を勵行

すべき筈であります。従つて途中、景色がよいからさて、

私に滞在することもかなひません。天皇陛下の仰せ言を受け、かしこまりましたとて、出てきた身でありますから、滞

留もかなはず、よい景色の田児の浦をば夜に見るこゝであるこいふ意味であります。

「大君の命かしこみ」の言葉は、萬葉集中、約三十箇處に見

えて居ります。非常に多くの人が用ひた言葉であります。そこに萬葉時代の人々の志のあるところを見ることが出来ませう。年代的に申しまして、田口益人の此の歌なぞが最も時代の古い作といふことになります。言ひかへれば、萬葉集では田口益人あたりが始めて「大君の命かしこみ」といふ言葉を使ひ出し、それが多くの人々に用ひられるやうになつたのではないかと思はれます。「大君の命かしこみ」といふ言葉が多く使はれてゐるのは、卷二十の防人歌であります。

大君の命かしこみ磯に觸り海原わたらる父母をおきて

(相模國防人)

大君の命かしこみ出で來ればわぬこりつきて言ひし兒な

(上總國防人)

はも  
大君の命かしこみ夢のみにさ寝か渡らむ長けこの夜を

(下總國防人)

大君の命かしこみ青雲のたなびく山を越よて來ぬかむ

(信濃國防人)

大君の命かしこみうつくしけま子が手はなり島傳ひゆく

(武藏國防人)

卷二十にある諸國の防人の歌は、孝謙天皇の天平勝寶七年二月のことでありますので、田口益人が上野國に赴任した和銅元年からは、實に四十七年の後の事になります。防

人たちが田口益人の歌に影響されたといふのではなく、東國の人々の間に「大君の命かしこみ」水火の難をも避けないといふ堅い信念が出来てゐたため考へられます。

なほ同様の作は、卷十四の東歌の中にも見えて居ります。

大君の命かしこみ愛し妹が手枕離れ夜立ち來ぬかも

これは作者の不詳の歌であります。やはり防人なぞが愛する妻に別れて出かけて行くときの吟詠と思はれます。大君の命かしこみ愛し妹が手枕離れ夜立ち來ぬかも苦しい事をも耐へ忍ぶといふ意氣が見えるのであります。

額に矢は立つとも、そびらには矢を立てないといふ、進むことを知つて、退くことを知らない。東國武士の面目の躍如たるものがあります。

このやうな意氣は、また「海行かば水漬く屍、山行かば草生す屍、大君の邊にこそ死なめ、かへりみはせじ」の精神を相通するものであり、全く我が國獨特の精神といふことができませう。

卷十三の「み吉野の眞木立つ山に」といふ長歌の中に「大君の遣のまにまに」とあり、その所が或本では「大君の命かしこみ」となつてゐるといふ事であります。この「或本」とは、萬葉集の編纂當時既に存した異本と思はれ、或は作者の再案であるかもわからぬのであります。兎に角「大君の命かしこみ」といふ事と「大君の遣のまにまに」といふ事が、ほ

ば同様の氣持を現はしてゐるものであるといふ事がわかるのであります。卷十七の大伴家持の作品の中には幾首も「大君の遣のまにまに」といふ言葉が用ひてあります。天皇陛下のお遣しに従つて、越中の國に赴くといふ事であります。

卷三に石上大夫歌として、「大船に真梶繁賀き大君の命かしこみ磯みするかも」がありますが、それに和する歌として「もののふの臣の壯子は大君のまけのまにまに聞くさふものを」といふのが載せてあります。かういふところからしても、兩者の關係がほどわかるやうな氣がいたします。そして「大君の命かしこみ」も「大君の遣のまにまに」といふ言葉も共に、千年の後、今日もなほ生き生きとわが國民の間に働いてゐるこは、日常私ざもの眼に見、耳に聞いてゐるこであります。古典の世界は、決して遠いものではなく、全く現實に生き働くものなのであります。

そこに、我が國柄の尊さがあり、また我が古典の特色があるのであります。萬葉集は、古くして、しかも新しい今日の聖典と申してもよいのであります。

次に「大君」といふ言葉であります、私は今總て「大君」といふ文字を使つてきましたが、萬葉集の原文では色々の文字が用ひてあります。煩いことはす全部數へあげてみます。卷三のはじめにある柿本人麿の雷岳で詠んだ作「お

ほきみは神にしませば天雲の雷の上にいほりせるかも」も、或本では「王」になつて居ります。その他「王」といふのは十五ばかり例があります。また「大王」も書いてもオホキミと読みます。これも仲々多く二十四ばかり例があります。それから「皇」「大皇」「太皇」もいづれもオホキミであります。

また「天皇」といふのもオホキミと読みます。例は卷一の終に「天皇の命かしこみ」といふのがあり、その他六つばかり例があります。「大君」といふ文字は卷十八に一つの例があります。

以上はいづれも漢字で書いてありますので、本當はどう讀むのかよくわからないわけであります。そこで全部一字

一音の假字書になつてゐるのを調べてみますと、大體次のやうになつて居ります。

- 一、於 保 伎 美。
- 二、於 保 伎 見。
- 三、於 保 吉 美。
- 四、於 保 吉 民。
- 五、意 保 伎 美。
- 六、意 富 伎 美。
- 七、憶 保 枢 美。

ほこんど同じやうでありますが、よく見る少しつゝ違つて居ります。四字のうち、一番はじめの字は、「於」「意」

「憶」の三種であります。これはいつれもア行のオの假字であります。次に第一は「保」「富」の二種で、清音のホ<sup>ミ</sup>いふことになつて居ります。第三は「伎」「吉」「枳」の三種になります。江戸時代の石塚龍麿といふ人の研究によりますと、萬葉集の假字の使ひ方には嚴密な規則があつたやうであります。

この「キ」の假字については、通用するもの<sup>ミ</sup>、通用せぬもの<sup>ミ</sup>二種類あつたといふのであります。さういふことは、石塚龍麿の假字遣奥山路といふ本に出て居ります。最近に至つては橋本進吉博士によつて一層詳しく述べを進められ、只今では上代特殊假字遣として、萬葉集研究には大事な研究になつて居ります。それによりますと、此の「伎」「吉」「枳」は清音用ひられて全部共通のもの<sup>ミ</sup>いふことであります。同じ假字でも「奇」<sup>ミ</sup>か「貴」<sup>ミ</sup>いふのは、「伎」「吉」「枳」<sup>ミ</sup>は違つた假字をいふことになります。そこでオホキミのキは同一種類の假字で書かれてゐるわけであります。そしてそれは濁る音でなく、「キ」<sup>ミ</sup>清音に讀むことになつて居ります。この頃「オホキミ」<sup>ミ</sup>「オホギミ」<sup>ミ</sup>の區別が注意されて來るのであります。なほラジオなきでは知名の方も依然として「オホギミ」<sup>ミ</sup>濁音に言つて居られるのを耳にいたします。一體「オホギミ」<sup>ミ</sup>濁つていふのは、後世の言葉であります。意味は親方<sup>ミ</sup>いふやうなものになります。それは、すめらみ<sup>ミ</sup>ここいふ「オホキミ」

これは大變違つたものになります。ところが萬葉集ではつきり<sup>ミ</sup>、キ<sup>ミ</sup>清音で書かれてゐることは以上の通りであります。オホキミ<sup>ミ</sup>オホギミ<sup>ミ</sup>どちらが正しいか迷つて居られる方には、どうか萬葉集例を示して戴きたいのであります。

ちよつ<sup>ミ</sup>横道にそれましたが、第四は「美」「見」「民」の三種、これも通用の文字であります。色々文字の種類はありました。要するに一種の假字であつて、少しも疑問はないのであります。文字の使用の上にも、かやうに嚴密な區別があつたといふ事は、當時の發音の上に嚴重な區別が立てられてゐた證據<sup>ミ</sup>思はれます。そしてその純粹性を保つてゐる事<sup>ミ</sup>思はれます。また國體の尊嚴を保つ<sup>ミ</sup>いふ事<sup>ミ</sup>も一脈相通じた所があるのであります。オホキミ<sup>ミ</sup>いふ一語ではありますが、言葉の純粹さ<sup>ミ</sup>いふ事<sup>ミ</sup>國柄の純一さ<sup>ミ</sup>いふ事が一致する<sup>ミ</sup>いふよい證據になる<sup>ミ</sup>思ひます。假字遣<sup>ミ</sup>いふやうな<sup>ミ</sup>ことは、さうでもよい<sup>ミ</sup>いつて、便利主義に流れてしまふのは、よほ<sup>ミ</sup>考へねばならぬ<sup>ミ</sup>ことになります。また少々脇へそれましたが、萬葉集の中に、私どもはかういふ忠君愛國<sup>ミ</sup>いふ純粹感情を見る<sup>ミ</sup>事ができるのを非常な幸<sup>ミ</sup>思つて居ります。萬葉集が單なる歌を集めた本ではなく、我が國の尊い古典である<sup>ミ</sup>いふ意味は、かういふところにあるのであります。(つづく)

# 八・九月の保育

## 生活訓練

### 倉橋惣三

八月は毎日は幼兒の幼稚園へ來ない月でせう。こどしは大學と同じやうに、休みなしといふ急氣込みでゐられるところもあるかも思ふが、それにしても所謂「夏の幼稚園」といつた多少特別の形になるであらうし、こゝでは先づ、九月を主にしてのことが書かれると思ふ。本誌が八月休刊で、九月に八、九月號を出す仕來りから、一と月飛んで九月のことを仕度する譯になるのである。その九月は、殊にその初めの方は、土地によつてまだすつかり夏のつゞきのところもあり、土地によつては、急に秋近さと思はせるところもあり、北と南では大分ちがひもある、どうも筆者達がなるかも知れない。しかしまあ、秋來ぬと目にはさやかにみえねどもといふ譯だから、そのところは、大目に見ていたゞかう。

さて、私の受持ちの生活訓練に、八月も九月もない。夏だがら

とて秋だからとて、生活が訓練の対象になることに於て變りはない。

訓練にやすみなしで、假りに裸の夏だつて、そこにはそこの、否々、そこにこそ訓練があるともいへる位である。勿論、原始味を貴しとする裸保育に、そうへ、窮屈な折目物腰を要求されても貴きれないだらうが、原始味と無作法とは一つではない。

夏の鍛けの第一は行動をしやんとさせることである。だらく、ぐづく、についなり易い時であるが、飴の幼稚園ではなく、そんならしないことを許してはならない。廊下を歩くのにのろくしたり、保育室の机にぐんにやりと肘つきをしたり、遊園の隅でばんやりしてしゃがんでゐたり、遊戯室のスキップにぐつたりくしたり、若しもそんな子があつたら、いやんと歩かせ、腰かけさせ、立たせ、飛ばせなくてはならない。但し幼児だからとて鐵製ではないから、強い直射の日和に長く焼いたり、換氣の悪い部屋に大勢を蒸したりして、それでしやんとしてゐるといふのは無理である。第一衛生上の冒險であるから充分注意しなければならないが、平常の行動は、勵ましてしつかりさせなければならぬ。その行動は、たゞからだの動き方ではなくて、心の持ち方氣の入れかた、であるからである。又、その行動から、氣の入れ方、抜け方が左右されて来るからである。

おとなの場合、暑さに負けるなどいふことがある。幼児の場合、まけるなんなかでなく、暑さに克てざる。ところで、その克つ爲にはどうするか。うんと面白く遊ばせるに限る。遊びは眞剣で

ある。眞剣は己れを忘れる。己れを忘れば暑さも忘れる。汗を流しても、頬をまつにしても、暑いと感じない子に暑さの苦はない。氣候のいゝ季節よりは自然疲労が多いとして、夕方行水をつかはせて、軽い食事を與へて、さつぱりした寝巻を着せれば、直ぐぐつすりと寝入つて仕舞ふ。それでその日中の疲労は一掃されて仕舞ふのである。——それからは快い夏の夢と、明け早い夏の朝で、きのふから見れば明日、けさから見れば今日の生活訓練が新たに初まるのである。その、朝の訓練の大切さと實際の一端とは、此の號の「幼兒の母」のページに書いて置いた。家庭の領分だから、母によく氣をつけて貰ふより仕方ない。が、それから直ぐ—或は家庭保育につゞくのもあり、幼稚園保育につゞくもある。だつちにしても、夏の朝(あしたと讀む)の何んと爽かに快いことよである。

ところで、夏の生活訓練の要諦こゝにありとして、それは方法だけで訓練できるものでない。氣分の訓練が主になつてゐる以上、はたの氣分の如何によつて訓練し得ることである。端的にいへば、姆保さんの氣分がじやんとして居り、その氣分から出る行動がしやんとしてゐないで、幼兒をじやんとさせることは出来ない。ぐつたり先生、ぐんにやり先生、といつた。夏負け先生に幼兒の夏の訓練は出來ない。きりつとした夏姿に、すつきりとした身のこなしはき／＼した言葉、さえ／＼とした表情。幼兒もそれに勵まされずにはゐないであらう。更に遠慮なくいへば、夏ほど先生のみだしなみの大切な時はない。どうせ汗を流して飛びまわつてゐる

のに、そんなにスマートな夏化粧、夏衣装は望まれないけれども、よこれた髪、なよ／＼の襟、ぞろ／＼の裾、べちや／＼の穿きもの、それでは風爽かな夏の幼稚園の繪にならない。といつてまだ、つくり衣紋にへら／＼袖、ひきずり袴、動きを嫌ひ、汗を厭ふ、しゃなり／＼では問題にならない。幼兒に對しても、汗を出させないと之れ嫌けどする位のものであらう。(少々筆が走り過ぎたようですが、夏は何んでも、さつくばらんがいゝでせうから、さしさわりがあつたら御免なさい。)

### さて、九月新保育期。

「系統的保育案の實際」の九月第一週の初めに「夏休み後の注意として諸規則を正し遊びの後仕事よくすること」とある。休みといふにしてもいはしないにしても、暫くでも家庭だけの生活にじだらくな癖がついたとすれば、再開の第二保育期は、先づ引きしみから始められる必要がある。新入園の第一保育期初めには、いきなりひきしめないで、そろ／＼と、いつの間にか幼稚園生活に慣らせてゆくといふことを祕訣とする。第二保育期はそれと違ふ。既に幼稚園生活といふものを知つてゐる子ども達である。しつかりしやうとすれば出来る筈の子ども達である。それをしないのは、ねじのゆるみである。早速巻きなほさないといけない。殊に、いくらか、なれのおりもある。新規に氣を入れさせなければならぬ。休み前にはちゃんと出来てゐた生活をもとにして、さつさと其の通りさせてゆかなければならぬ。

自由遊戯

上遠文子

幼児ながらも何とはなく緊張した夏休みをすませ、陽焼けした元気な顔を並べてくれる。

年少組等では特に感じられる事ですが、家庭生活にもなり過ぎ團體生活にもなりにくい此頃の幼児達を、先づ自由遊戯をもつて、早く團體生活氣分に引もどし、家庭幼児であり且幼稚園の幼児たらしめたいものであります。

このことは九月の仕事として先づ考へる事であります。

しゃがみ鬼 鬼ごっここの類で、しゃがむ事を陣の代用とする鬼

こうこで、年少組にもわかり易く、又面白い遊びであります。

兵隊ごっこ(含戦争ごっこ)、何と云つても男の子がもつとも好み、もつとも愉快とする遊びであります。唯の訓練的遊びに止るもの、假想の敵(あるものとしてゐる)のある場合、組の中で、又は他の組と対抗してするものの種々行はれますが、私達は特に、どの程度まで進行して指導すべきかを考へねばなりません。度を過ぎるとその遊戯は争闘に化してしまひます。先づ私達は戦闘が開始されましたら常に監督を忘れぬことです。附屬幼稚園でもどうかすると組對抗の戦が始まりますがしかしその時、戦闘開始か否かは擔任の命令即ち總指揮官の命の下るのを待つ事に約しましました。部隊長、隊長その他は如何も子供達同志で決め合つてゐるもろし、求めて訓練されようともするのである。

斯ういふと、理窟づめに推してばかりゐるやうでもあるが、そうでない。こゝに一つの大いな譯は、第二保育期になると、幼児の心構へがぐと違つて來てゐることである。見上げるほどに、一寸おかしいほどに、幼稚園園児としての生活感情が發展し、確立し、強化してゐるのである。それに裏づけられて、訓練もぐつとし易くなる。軽い意味で自重心に訴へるといった譯合である。がしかしまだ、そうだから、訓練がむづかしくなるところもある。すなはち、九月こそは、園児の生活訓練の大切なきつかけになる。しまるのも此の時、ゆるむのも此の時。そう充分にしまることはむづかしいとして、ゆるめないことは、九月の用心といふものであらう。

總じて、幼児は元來がそうじだらくなものではない。躊躇といひ訓練といひ、何んだか、外から無理押し、強制の壓力の感じの伴ふのが一般であるが、決して、そぞとのみ限らない。それどころか、きちんとした生活は、幼児の自ら求めるところといつてもよい。家庭ではみんながちゃんとしてゐないので、自分だけちゃんとするものがむづかしかつた。又、なんだか却つてしまりが悪いといったところもあつた。それが、お休みの間、樂しみに待つてゐた幼稚園、憧れもし、自らの誇りともしてゐた幼稚園へまた來たのである。先生の向きの向けかた一つで、喜び勇んで駆けられし、求めて訓練されようともするのである。

のです。日頃勢力あるものはやはり部隊長等になります。がこれ  
はまあやむを得ぬ事であります。但し部下にやさしいよき部隊  
長さんたらしめたいものです。鐵砲、機關銃、大砲、すべて積木

(長方形のもの)を用ひます。機関銃も大砲も子供達は自由に最新  
式の型を発明して作つてゐます。「へッ、敵は一〇米先に迫つて  
おります報告おわり」等びっくりする様に小さい兵隊さんを立派  
にやつてのけてゐるのもほえましいものです。戦争が始まるご  
とんさんはバターと負傷して倒れてしまひます。女の子は看護  
婦さんになり救護所までよいしょ、よいしょとはこんど其處で手  
當を致します。

或者は飛行機になり両手ひろげて飛び廻り砂、小石を爆弾の變  
りと両手に握り適當な所へ落してゆきます。時には一騎打が始ま  
りますが、あまり粗野な氣分は氣を荒く導きますので止めませう。  
先生は部隊長になり皆を指揮しても又一兵士になり活躍しても何  
れでもよい、清い戦である様指導したいものであります。前者は  
年少組の場合、後者は年長組の場合とも云へませう。

**マラソン** 常に一定の速度でゆづくらと駆るものも氣持の整然と  
するよいものであります。廣い野原にハイキングに行つた時、空  
地、グラウンドへ遊びに行つた時、圓りを二三回まわつてみませう。  
これは競走にまで發展せざるをまだ、子供達にはマラソンの意が  
解せずどうしてもかけつこになりますから、マラソンの本質を失  
はぬ様、最初は五六人なり又は大勢でも結構、そろへて、同じ速  
度でかける事を致しませう。時には遊戯の時、曲にあわせてマラ

ソンするのもよろしいでせう。そのうちに子供達もマラソンの  
快調子を感じて來ます。これは私共が先になり指導しなければな  
りません。

### 野球あそび

神宮球場でもそろ／＼リーグ戦が近くなつて來ました。大人の世界に吹いた風も子供達の世界へもやつて來ました。

年少組には少しもづか

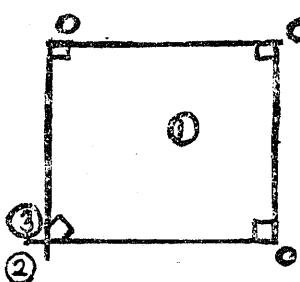
しく年長組の遊びとして致しませう。先づ大きく正方形の線を引き上圖の如く、片隅を本壘にし、

他三隅を一壘、二壘、三

壘ときめ、上圖の①投手

②捕手、③打者、あとは

三人でなくとも多くてもよろしいでせう。組を分けたはむづかしいでせう。



から、投手、捕手、それと變る事にして、打つて本壘へ歸るまでの遊びとします。始めは三壘に分けて一人々々打つ毎に一壘から二壘へ、二壘から三壘へと變るのはむづかしいでせうから、一壘だけにして置きます。なれたら、一壘づゝ増やしてゆきます。壘は勿論、布製のものを用ひます。投げてもよろしいですが、轉がす方が危険は少いと思ひます。投手だけは先生がすれば投げるのもかまわないでせう。打者は拳骨か、拳骨に手拭をまきつけ

て打ちます。

## 遊 戲

古 澤 靜 子

### 兵隊あそび

大東亞戰爭勃發以來九ヶ月、皇軍の赫々たる戦果は、全世界の驚異と絶讚のうちに、新たなる大東亞の歴史を生みつゝある。より激測たる幼兒の身心たらしむべく、今月は戸外運動として「兵隊あそび」を遊戲化してみたいと思つた。即ち、全員集合より、進軍、開戦、攻撃、勝利、凱旋に至ると云ふ物語りを、唱歌戯

の「兵隊あそび」及び「太平洋行進曲」を中心として、正常歩、駆足の豫備運動より、胸背腹平均跳躍等の様々な運動に至るまでの一連の運動形式を含ませて取扱つてみたいたいと思つたのである。次に其の形式は、

組の編成……戦争につこの場合には敵味方に分れ、男兒は兵隊女兒は看護婦になつて甲斐々々しく活動するが、こゝでは、男女の別及敵味方の別なく一組全體を日本軍とし、先生を總指揮官に任ずる。そして假想敵軍の前に全面的攻撃態勢をとる。

場 所……園庭

用 具……園庭の地形地物チャングルを利用し、平均臺様の

もの、跳越しに適當な箱を用意する。

樂 器……オルガンハーモニカ等、メロディーの出せるもの

○所要時間……約三十分  
用ひ度い。

では今から兵隊遊び「南方〇〇島〇〇攻略」をはじめらる。

一、「集合」指揮官の笛の合図に依り、全員各所より集り、二列縱隊に整列する。

「忠勇なる我が部隊が〇〇島攻略の爲に集つて参りました」。

二、「進軍開始」敵地へ進軍を開始しました。勇しく歩きませう一同右臂を曲げて銃をとり、股を高く上げて歩調をとり、行進曲に合はせながら行進する。園庭の廣さに應じ、適當な距離を歩く。

三、「橋渡り」(平均運動)「有名な〇〇河に出ました」そこで工兵隊一四、五人選ぶ一は橋をかけなければならない。成るべく幅の狭い平均臺狀のものを持つて来て並べ、兵隊は列を作つて、一人づゝ渡つてゆく。成るべく急いで渡つて下さい。然し落着いて、河に落ちない様。

四、「クリーケ」(舟腹の運動)橋を渡つて暫く進むとクリーケに出ました。「皆で舟を漕いで渡りませう」橋の次に少し歩き、八人乃至十人づゝ縱隊に並び、其の場に止つて、臂の屈伸と共に上體を前後屈しながら舟漕ぎの動作を行ふ。舟の曲で伴奏する。

五、「這ふ」次に敵前上陸を行ふ。一同這ふか、又は上體を全屈して少くなくつて歩く。

六、「小休止」次の激戦を豫想してここで暫く休憩する事にし、その場に腰を下ろして休む。

七、「密林を突破」(攀登運動)「今度は物凄い密林にさしかかりました。これが突破し、敵陣目がけて襲撃しなければなりません。園庭にあるジャングルを、一方の端から端へくぐり抜けたり、登つたり下つたりして、暫く遊び、指揮官の合図に依り再びジャングルの前に整列し、駆足で進む。

八、「小山越し」(跳躍運動)「小山にさしかかりましたが、勢よく跳越しませう」先生は跳越せる程度の小箱、積木類を二、三個並べ、兵隊達は一人づゝ跳躍して通る。

九、「大攻撃開始」(唱歌遊戯兵隊ごっこ)「愈々敵陣に迫りました。大攻撃が開始されます」こゝで圓形を作り、元氣よく歌ひながら、「兵隊ごっこ」の遊戯をする。歌詞トテチタチテチタチの次にドン／＼／＼と砲撃の音を入れて長く打ち合ひ、二三回遊戯を繰返す。

〇、「大勝利」「勇敢な日本軍の大勝利です。空には銀翼を連ねて友軍機がこんでゐます。皆さん一緒に萬歳しませう」遊戯の後、合団に依つて一同立ち上り、両手を高く上げ胸を反らして萬歳し、空を見上げる。

一一、「お祝ひの遊戯」(唱歌遊戯太平洋行進曲)

再び圓形になり、太平洋行進曲の遊戯をする。  
一二、「凱旋」「一同揃つてめでたく凱旋いたします」圓形をほどき、羅隊になつて愛國行進曲を歌ひながら颶々と行進する。

場所及び用具に依りもつと面白く變化ある方法が考へられると思ふが、思ひ出したまゝに簡単な一例をあげてみた。

### 観察

### 清水光子

#### 朝顔

夏休みが終つて久し振りに來た幼稚園は何でもが新しく、嬉しい。お休み前にみんなで世話をしたお庭の草花がどんなになつたか、見てまはらう。朝顔は中でもすつとつどいてみて來たといふわけで親しみ深い、花はもう大分小さくなつただらう。もうあまり咲かないかも知れない。實が出来てゐる。その様子をそのまま、話し合ひ乍らみる。鉢植のものがあれば殊にいゝがなければ蔓のまゝを切つて、朝早く日陰に置く。そして日向のはもうつぼんだけれどこゝのはまだ咲いてゐるゝ話ひ乍ら寫生したり、鉛筆仕しだりする。幼い頃の記憶の中に朝顔の花でしたまゝごとのことがはつきり残つてゐるが、赤や紫の花汁がきれいなこちさうになる。それから明日咲く花を待つといふと少し大きさであるが明日はいくつ咲くか數へてみませうかと蕾をかぞへておく。思ひがけない所に咲いてて数が當らなかつたりするがそれが又面白い、蕾も花も、若い實も、出來上つた實もあつて、朝顔でごくおぼろげ乍ら花から實へのつながりがみられる。この花が色がいゝから又來年もこんなのが咲くやうにこの花の種子をとりませう、花と

の所へ目印をつけておき、種子をとる時の仕度をするのもいゝだらう。實が茶色に實つたらお盆のやうなものにそのままとつての種子を出してもらふ。子ども達に「しよにどらせ」。そして中から々の袋に入れて色をかいてしまつておく。かうした仕事は何でもないことだけれど子どもにお手傳ひを出来るだけさせて度々したい。保母にとつても本當に嬉しい一時である。

### 庭の蟲

「こほろぎ、きりぎりす、ぱつたな」蟲たちも夏休みの終りをまつてゐたやうに雑草の間や木の根本、朽木の間になつてゐる。聲をたよりにさがす、飛び出す、追ひかける。捕つた蟲は籠に入れたり、少し土が砂を入れ草を敷いた箱などに入れたりして飼つてみるものもよい。又砂場に蟲のお家を作つたりする。けれどあまりいちめ殺さないやうに氣をつけ度い。静な午後のひととき、おへやのこほろぎがないてゐる。そつとくみんなに知らせてきいたりすることもある。口でなくでのない事などを話してきがせなくともよいであらう。子どもの疑問でみられたらみることにする。

### 彼岸、日光

彼岸の意味は言ふまでもなく行事としてと自然現象としてと二つあるわけである。彼岸の中日は秋季皇靈祭の行はせられる日、國家的行事のある日で國民も各々先祖を祭る日であることを子ども達の生活の中に近いお墓参りお寺参りに連れて行がれることがお團子などをしてお供へするなどの地方的風習から話して

きかせる。自然現象としての晝夜平分とか太陽が眞東から出て眞西に入るこことなどはそのまま説明してもどうであらうか、たゞ晝間と夜とが同じ長さであるといふことは一日といふのは時計の二まはりであること、それが一まはりづゝ夜と晝になること、これからは段々夜の方が長くなつてゆくこと、との程度をこく簡単に話すのでよいのではなからうか。それで日光とか太陽とかについては別に機會ある毎に注意して觀察させることにする。例へば私のしたまゝをあげてみると(まことに恥しいが御参考までに)一組の持堀の花壇を見舞ふ。朝とか午後とか大體時刻は同じ頃である。毎日でなくして時々太陽のある方向と日の當る場所とを注意してみる。すると思ひの外はつきりと太陽の動きがわかる。この間はかうだつたのに今日はこゝも日がよく當つてゐるのねといふやうに話しあふ。(二)體操をする時刻は大體まつてゐる。體操が終つておへやに入る時影ぼうしをみる。する分小さい背ね。みんなも先生も、と比べ乍らまづ影をつくることに注意して時々影の長さをみて暑い頃より長くなつた事を思ひ出させてみる。又何かきまつた位置に立つてゐるきまつたもの、影を測つてみると、いゝがそれは年長組でしかも子どもみせるのではあるけれど先生が自分の興味でやつてゐるやうな風にしてみることにする。

(三)ドアの硝子の隅をふとみてゐた子どもがきれいな色がみえると言つた。それでみんなにみせた。それから鏡のある所へ行つてその隅にやつぱりきれいな色がみえるのを教へて喜んでみんなみた。中でどうしてなのときく子どもがあつたけれどどうしてか

しら、ふしきね、とだけ言つておいた。(四)窓に近くバケツにくんで置いた水に日が當つて壁に丸いかげをうつしてゐる。みつけた子どもがおばけだといふ。何だらうといふわけで原因をみつけた。手をかざして丸いかげをさへぎつたり、水をうごかしてみたりする。持合せの鏡をもつてきてうつしてみせたりした。なぜかといふことは一切こちらからは言はないことにした。疑問をもつた態度、その疑問を解き度い、解かうといふ態度を先生がまづ持つことにして。(五)これは小さな光学である。よくすることでもあるがおべんたうの時お箸をお湯のみに入れて折れたと言ふ。出してみて直つた、ほらね、と何度もやつてゐる子ども。先生も一しょにやつてみる。こはんをいたゞくのがそつちのけにならない程度に。そしてどうしてかしら、とまづ先生が疑問にした。

風  
二百十日二百二十日を控へた九月は風が吹く日が多い。今日は風がひどい、あのお庭の木の太いところまでやれでゐる。今日は割合に静か、あの木の枝だけゆれてゐる。これは風の強さである。日の丸の旗がはたゝと鳴つてゐる。今日はあちらの方から風が吹いてくるのね、あそここの煙も同じ方に行く、とこれは風の方向。これなどは何度も度々に機會ある毎に注意することにし度い。

## 談話

志村貞子

今月に豫定されてゐるお話は、夏休中のいろいろの話、二百十日の話、魔法の泉、三羽のひよこ、鳴かない鉢蟲、月の井戸、やさかり、一寸法师、一本足の兵隊、夏から秋へ、秋季靈験祭、黒のお客様、傳書鳩のたより、小人の笛であります。紙面の都合でこゝには取捨致しますが、まだ一残暑の厳しい時です、涼しいところで、静かにお話を聞く機会を充分に與へてやつて下さい。

**夏休中のいろいろの話**　これは先生のお話と、子供達の過した夏休の話との両方を含みます。

夏休が終つて久しぶりに幼稚園に來た子供達が、先づ先生にお話るのは自分の夏休でせう。これはまた、先生も子供達から一番に聞きたいことです。従つてこれは、先生と一人一人の子供との間には、極めて自然に、隨時に話されますし、またそれでよいのであります。けれども六月の誘導保育、お話を唱歌の會に於けると同様に、「發表の練習」「人の發表に對する態度」「共に樂しむ心」といふことを先生の念頭に置いて、一度みんなで集つて、子供達がそれとも自分の夏休のことなどを、お友達にお話する會とまでゆかなくとも、語りあひといふ程度のことをしていいのです。勿論この場合、先生は聞き手であると共に、語り手のよき援助者でもあります。

次に先生のお話、先生の過された夏休のお話も結構です。が、是非していただきたいのは、幼稚園の休の間に、子供達が楽しい夏を過してゐる間に、この國は如何に戦つたか、といふことあります。兵隊さん有難うの心から出るお話であります。

月の井戸 獣の村のお話です。日照がつゞいてどの井戸も涸れてしまつた中に、たゞ一つ、兎がお月様からいたゞいた井戸だけは、冷い綺麗な水がどん／＼湧き出でてゐました。皆はそれぞれの身體にふさわしい容物を持つて、兎のところに水を貰ひにきてゐました。或日、象が来て勝手に井戸の中へ鼻を突込んで飲もうとしてきかないので皆で、「この井戸はお月様からいたゞいた井戸だからそなごとをする」とお月様の罰があたる。そして水が濁つて悪い水になつてしまふ」といつてどうしても飲ませません。象は怒つて、「夜になつて皆がねてから飲みに来るぞ」といつて歸りました。兎はお月様に、「夜になつて象が井戸を荒しに來たら追ひ返して下さい」とお願ひします。やがて丸いお月様が昇つて、井戸の中にもまあるくうつりました。森から出來た象は井戸をのぞき込んで丸い、光つたものがあるのをみてびっくりします。鼻をつゝこむとすぐチラ／＼と碎けて散り、鼻を抜くと又、丸く集ります。象はだん／＼に氣味が悪くなつたう／＼逃げ出してしまひます。朝になると、兎は大喜びでお月様に御禮を申上げて、またせつせと皆に冷いきれいな水を汲んであげた、といふお話です。考へればいろいろ深い意味を持つたお話ですが、話す時は淡淡と話しませう。子供は子供なりに味つてゐますから。丁度お月見の頃にいゝお話をです。

やどかり これは當日本幼稚園協会から近く出版される幼稚園談話集の第二輯に載るお話であります。海邊のやどかりが、やどかりといふ名前がいやになつて、長い間借りてゐた貝殻にさやう

ならをして、自分の家を探しに出かけます。ところが蟹の穴に落ち剪まれさうになつたり、他のやどかりの家にとびこんで鉢合せをして逃げ出したり、さん／＼です。その中にさゝえの殻をみつけたやどかりはその立派なのに大喜びで中に入つてゆきます。ところがこの家は廣くてもくら行つても突き當たるところまで行かないし、つかまる所もないし、あつちへころ／＼、こつちへころこる、ころがつてしまひます。つぐ／＼前のお家へ歸りたくなつたやどかりは、しく／＼泣き出してしまひます。そこへ貝のお友達がやつてきて話をきく、皆で親切に始めの貝殻を探してきてくれました。やどかりは貝殻にごめんなさいといつてまた前のお家に入るといふお話です。この話からも種々の寓意を考へることが出来ます。けれども話す時は、子供達に親しかつた夏の海邊の貝同志の可愛い、お話をよいと思ひます。

一寸法師 既に子供達にお馴染深いお話です。このお話の頂點は、打出の小槌で一寸法師が立派な男になるところですが、お椀の舟に箸の櫂で漕いでゆくところ、三條右大臣の玄闇のところ、鬼とたゞかるところ等も子供の豊かな想像力を充分に樂しませ、喜ばせる點です。敘述は冗長にわだらす、しかも具體的に活き／＼と話したいのです。子供達がよく親しんでゐる話だけに、話方によつてはやりにくるものとなり、又、他の話以上に楽しめる話にもなりませう。

傳書鳩のたより 田舎にある弟が野原で遊んでの歸りに一羽の鳩を捕へます。みると足に何かつけてゐるので取つてやります

と中からこんなお手紙が出て来ました。

「お友達へ

この手紙を受け取つた人は、又お返事を下さいませ。僕は東京にある子供です、今、幼稚園でこの手紙を書いて鳩につけて、とばします。この手紙がどんな方に届くかわかりませんが、大きくなつたら東京に遊びにいらつしやい。又この鳩にお返事をつけて下さい。

二人は大よろこびで鳩に御馳走してやり、こんな御返事をかきました。

「私達は田舎にある姉弟です。今日は鳩さんのお使で、お手紙ありがとうございました。うれしうございました。今に大きくなつたらば東京にありますからお目にかかりませう。あなたも田舎に遊びにいらつしやいませ」

お返事をもらつた鳩は嬉しそうに遠くにとんで行きました。といふ短いお話です。何となく物足りない感じも致しますが、それだけにまた発展性のあるお話だと思います。二回、三回とつづけて東京と田舎の様子をそれゝ御手紙で知らせることにしておられ、又、傳書鳩のお話へと發展していくてもよいです。

小人の笛 これも談話集第二輯にのるお話です。兄弟もお友達もない三郎さんは、毎日ひとりでおもちゃの舟を池に浮べて遊んでいました。或日のこと何時ものやうにお舟を浮べて遊んでるますと、そこからか可愛い歌聲が聞えてきます。よくみるとお池の舟に小人が三人乗つて歌を唱つてゐるのでした。三郎さんが感心して聞いてゐる中に、小人達は今度は小さな笛を出して吹き始

めました。あんまり上手なので、三郎さんは「君達、なか／＼笛が上手ですね」と聲をかけます。

それから小人とお友達になつた三郎さんはお舟にのつてお池の底の小人の家へ遊びにゆき、澤山の小人達と鬼ごつこや戦争ごつこをして、本當に愉快に遊びます。そして小さい笛をお土産に貰つて歸ります。その笛をよく見ると、「お友達の出る笛」と書いてありました。三郎さんは大喜んでその笛を吹きますと、小人のお友達が澤山出て來ました。それから三郎さんは毎日この小人たちと樂しく遊んだといふお話です。本當に可愛い、優しい心持に満ちた、そして子供達の豊かな想像力を充分楽しませるよいお話だと思います。「お友達の出る笛」をもらつた三郎さんになつたつもりで嬉しく樂しく話したいのです。お友達の有難さ、お友達と一緒に遊ぶ樂しさ等は殊更にいはずとも子供達が自ら感じてくれることと思ひます。

二百十日の話 夏から秋への話は、夏休中のいろいろの話と同様、人により取扱ひ方も異り、内容も種々考へられませう。それだけに各自の力に俟つところが多いと思ひます。語り合ひの形にして幼児と共に話し合ひ、聞きあひつゝ、先生が筋なたで、まとめてゆく方法、或は先生が創作され、お話をとして聞かせる方法等、既に皆様が試みて居られることが存じます。幼児が自然界からより多くのものを、より豊かに享げ得るやうに、幼児の眼を正しく、深く導き育てる爲に、観察、手技等と並んでお話をにかけられる期待は大きいのではないかと思ひます。

## 及川 ふみ

## 自然物のおもちゃ作り

秋には自然物を利用しておもちゃが、かすかす出来る。木の實、梧桐の實などおもちゃになる材料が豊富にある。

桐の實、菩提樹の實、じゅず玉、藤、梧桐の葉柄、すゝきの穂など手近にあつてよい材料である。

どんどんぐり、じゅず玉など拾ひ集めるだけでも幼児たちを樂しませる事が出来る。どんどんぐりの實は形も種々あるが、コマなどに作るのにはどんな種類のものでもよい。ヒゴを二、三センチの長さにさして廻せばよく廻る。おかめどんどんぐりは形も大きくて、眞丸なので、こよりや、細いヒゴをさしこんで、手や、口にする可愛らしいお土瓶にならし、おちよこはそのままでお茶碗になるから、おまゝごと遊びのお茶道具にすぐに役立つ。

菩提樹の實は高く投げるとプロペラの様にきりきり舞つて落ちて面白い。じゅず玉は頸がざり、腕輪などにつくるとよろこばれる。藤や梧桐の葉柄は、どんどんぐりの子、げじげじ、なぞを作つて遊べる。梧桐の實は舟にして遊んでもよいし、又豆をつて普通の豆や、ゴム豆の代用品として誠に重寶なものである。一年中の材料として澤山に落ちる季節に幼児たちと一緒に拾ひ集めておくとよい。これは古くなつてもどんどんぐりなどの様に蟲づくこもなければかたくなる事もない。いつでも内部は錐や針でさせば

穴があく柔さでよい。

この他に土地によつて又異つたもので幼児たちのおもちゃになる材料が澤山にある事であらう。たゞ自然物おもちゃの多くは保存しておいたり、ながくつけて遊ぶことは出来がたいけれども材料も豊富なものであればくりかへし／＼作つて遊べてよい。

## 紙仕事

## 鶴小屋

古はがきを縦を二つ折りにして七センチにして、一枚になつてゐる方ははじから一センチのこして、はがきの横、九センチ幅を半センチづゝ線をひく。(輪になつてゐる方はその端まで)二枚のがきを同様に作る。線に沿つて鍵を入れて半センチづゝの細い線に切りはなす。一本を前に、次の一本を後に又次の一本は前にといふ様に全部を前後に二つに分けて二つ折にすると插圖の様な簡単な鶴小屋が出来る。二つの鶴小屋はつき合せに底の部分と背の方をはり合せる。左右の兩端には高さ五センチ位の簡単な扉をつけるとよい。

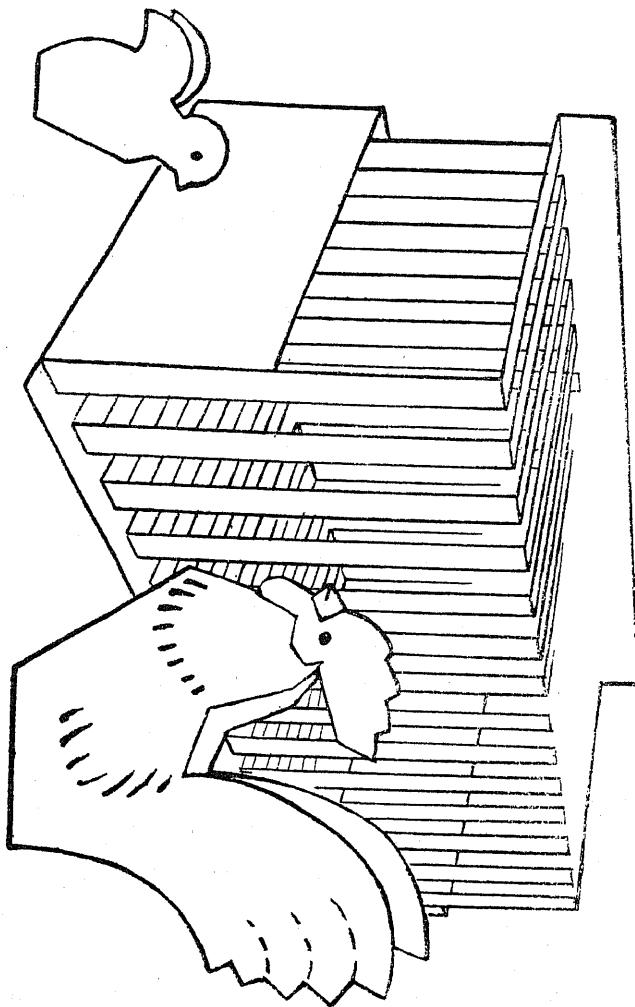
鶴は端書を二つ折にして胸のところを輪の部分で作つて二つに開いて鶴が立つ様につくる。ひよこの小箱などは端書を四つ割の大さで箱の高さ一センチ位のものを作つて箱の下にすゝきの穂でもしいておくとよい。

別圖に鶴やひよこの略圖を示しておいたが幼児たちが自分で簡単に畫ければこれにこした事はないのであるがたゞ後で剪つて立体にするので輪になるところを作る事だけをよく指圖しておかなくてはならない。

果物皿

お皿

古はがき一枚をお皿に作る。最も簡単なものは四角い箱を作ればよいのであるがあまり簡単すぎるから四角を一寸工夫して角立ちのお皿を作る事にする。周囲を一センチの高さにて四角は角よ



り三センチのところに一センチの切り込みを入れて立てる。お皿は周囲を塗るなり内部をぬるなり任意でよい。

果物

柿、栗、枝豆、その他野菜類など幼児たちの好むまゝに何でもよいが出来るだけ立體的に作りたいところがら前の鶴の様に一部

分、輸にしておく事に指導する事よい。

この果物皿はお月見のお供へ用として利用さればよい。異物の種類も秋にはいろいろと数多いことでもあるから、お皿の形は同じでよいから、中に盛る果物や野菜は幼児たちに出来る色々の種類のものをつくりさせてお月様にお供へするものなど賑にする事が出来る。

### 誘導保育

#### 菊池ふじの

##### 蟲の家

行水の捨所なき蟲の聲 鬼貫

草むらも草むらも蟲の詫音哉 白雄

初秋の景物は草むらにすぐ蟲である。目さとい子供等はさうしてこの蟲を見逃しませう。長いお休みの間、幼稚園のお庭の留守番になつてゐた蟲は、幼稚園が始まるごと幼兒達の、先づ最初の遊び相手になるのです。こう言つて見て、ふと、蟲影などゝしても

見られない街の中央にある幼稚園、又狭い園庭、園舎に大勢の幼兒を收容して、このさし迫つてゐる現實の家庭の、否、國の必要に貴い奉仕をして居られる澤山の託児所のこと、又蟲どもが憩ふ眼をも與へない程に、第二學期始業の前日まで近所の子供達を託児して社会から感謝を受けて居られる幼稚園の事を思ふと、遂申譯ないといふ心持になつてしまふのですが。

夏休みには近所の友達と終日を楽しく遊び過して來ると見え、

一體が入園當時の新學期に戻るとは言へるのですけれど又遊びには入るのも大變に早く、第二學期が始まる早々、よく積木で蟲のお家をお砂場に拵へて私達を驚かすのが常です。又いろいろと達った蟲を捕へて來ますから、硝子の鉢などに草を入れて、子供等の、捕へて來た蟲を飼つてやり、暫くの間でもいいから、この止み難い子供等の興味を満足してやり度いものです。この、秋の蟲の場合は、春の毛蟲などのやうに、蝶や蛾への變態を見るといふ連續せる觀察主題にもなりません。唯子供達の興味を興味がり、それにも多少の複雜性と活氣とを與へて、蟲への觀察を助けるといふ位のものでせう。強ひて誘導保育と名づくべき程のものでもないでせう。たゞこの場合、愛撫が過ぎて慘刻にならぬやうに子供等の動きの上に細心の注意を向けることが肝要です。

續時間といふ程のことも無いのですが、興味の山は一週間程が最高潮でせう。

期待效果は動物に對する愛撫、觀察の二つに盡ります。

##### お月見

同じ天體でも、烈々たる太陽に對しては畏敬と言つた様な強い感情が湧いて來ますが、瞬く星、冴え渡る月に對しては一種たゞへやうのない霧のある神祕感に打たれるものです。

時正に大東亞海を席巻して、皇國の威武全世界に輝く時、お月見を機縁として天體の科學的觀察の初步に導く位のことは必要でせう。殊に子供達の大好きな海戦から日本海軍の優秀さ、その艦船の動きには天體の觀測は絶対に必要なこと、例へば船艦は渺茫たる大洋の眞中で自分の位置を知つたり、進路や距離を測るには

何よりも天體の観測に據るものなる事など、又一方月に星に對しての安價な感傷的な感慨に耽ることは許されないことを思ひますけれども、翻つて皇國永遠の榮光を擔ふ爲には、昔から培はれて來た、自然に對する幽雅な國民的感情を育成することも亦缺くべからざることであるのです。武力に於て世界に冠絶しても、國民一人々々の感情に於て、文化に於て粗野である時には、長い間にはやがて、折角の勳功も輕蔑せられる時が來ないとは言へません。一方に根強き發展力と、他方に優雅なる文化を持つ國民となり得て、始めて今日の榮光は永遠のものとなると思ひます。この意味で、幼兒に於ける月や星に對しての神祕的な感情の情も亦蔑るべきではないと思ひます。

世の中が忙しくなるにつけても、子供に就て専門的な位置をもつ母親や保母は、この目に見えない力となり露となる原動力たる小さい行事にでも心くばりを怠らぬやうにあり度いと思ひます。

先づ十日程も前から月の大きさの變化に興味を向け度い。それから前の日位からお供へもの、製作に取りかゝり、當日を山にし終る。期待效果は、行事に對する興味、極く初步の科學的天體の觀察、製作の三つ。

**秋祭り** 鎮守神の祭禮のことを秋祭りといひ、九月に最も多い。所によつて日がまち／＼で、又その仕方も一様ではありませんが、東京の各鎮守神ではめい／＼に神輿を持ち、氏子の若い衆や子供達がそれを擔いでまはるのであります。大抵子供が鉢巻をしめ紺てんを纏ひ花袴をつけて擔ふのであります。之は子供にとつては誠に嬉しいことなのであります。

幼稚園でもこの子供の心を汲んで、樽とか大箱などでお神輿の體を作り、お神輿らしい裝飾を切り紙などで施し、みんなで幼稚園の庭中まはるのであります。

期待效果は行事に對する興味、觀察、製作の三つ。

繼續時間は、最高潮が一週間位。

#### 動物園

子供の興味を持つ動物を主題にして動物園を作らうとするのであります。以前こういふ時局になりません時は、年長組のことでもありました。木の古箱等を利用して大きな動物園を作り、室内を動物園にして喜んだものでした。あの頃の事を想ひますと、何と言つても誘導保育の豪華版時代だつたと思ひます。一本の釘でも無意味に使つては相濟まないと思ふ只今の時世では、どういふものを材料として動物園を掩へたらよいでせうか、一案は紙の古箱利用、一案は古葉書利用。何しろ年少組のことですから、極く簡単に、容易に子供達にも出来るやうにと心掛けなければなりません。動物によつては描き易いのもありますか、顔、形がなかなか描けないのもありますから、子供自身で數種の動物を描かせるまでには並々ならぬ苦心、苦勞が要るわけであります。漸く出来た各幼兒の動物を動物園らしく組立て、入場券とかポスターなどを作り、幼稚園中の幼兒の觀察に供してこの計畫を終るまでには、保母その人の熱意と努力とも亦堅急缺くべからざる原動力なのであります。

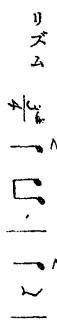
期待效果、動物愛護の精神涵養、社會生活の興味、手技、觀察の四項目。繼續作業時間は五週間位。

# リズム遊び

みどり会音楽研究部

## 狸の腹つゞみ

子供どりズム こんな自然な結び付きはありません、幼稚園で保母が或る意圖の下に行ふ事柄の中で子供が一番無條件で喜ぶのがリズム遊びです。ピアノに合せて手を打つのも足拍子をとらせるのみでも嬉しさうにはすむ子供達。保母の一寸した工夫で之はもつとも樂しくリズム訓練などいふ意圖を少しも表に出さずに遊びの中に自然に行ふ事が出来ます。そこで年少組でも出来る程度の狸の腹つゞみといふリズム遊びを考へて見ました。



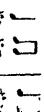
道具 指導者は積木又はタンペリン

子供は原則として道具なし、軽い五種立方位の積木があつたら使はせてよい。

方法 何時ものやうに皆で大好きなお唱歌を歌つて楽しんでゐる中に先生も皆も狸になつて遊びませうと御相談が定ります。

「ね、狸の腹つゞみ知つてあるでせう、皆叩いて御観なさい」

子供達思ひ／＼に自分のおなかを叩く、大體ポンボコポンボコ／＼／＼といふ様になる、之を先生が整理して休止符を入れ



として指導する……

「向ふのお山にお月様がお沈みになり鳥もカア／＼お家に歸りました、すると野原のすゝきの向ふからきれいなお月様が出て来ました。さあ／＼又今晚もお月様にきいて頂く爲に腹つゞみのおけいこしませうね、お姉さん狸お兄さん狸も圓くなつて坐りませう。」

先生はお姉さん狸になつて積木を持つて皆の間に坐ります。

「まあみんなお姉さんの真似をするのだがよ、ポンボコポンどおながを叩きませう。」

この時アクセントをしつかり教へます。

ポンたきつくボコはそつと、その次のポンは又大きな音で、と説明しあとは指導者が多少身振を大きくすると、お部屋の向ふに、兎さんの影のうつゝた子供達はついて来ます。

金色のお月様を見てぞの狸さんも一生懸命です。大體調子の揃

つた時、今度は良い音のするように拍手で致します。拍手でも子供は充分腹つぶみの感じで嬉しさうにしてゐます。

おしゃべりしたり、よそ見したりする悪戯狸さんはお下手でお月様に笑はれますから。

立ち上つてお爺さん狸とおけいこを致します。お友達が應援

して下さるので怒ちよく掻ひます(少しも弱小感な件はずに子供はよくなります)。次は男女両側に別れて競演させます。どちらの狸さんがよく掻ふかしら、お爺様が審判官ですよ、捉てそ

の次は一小節目と二小節目を分けて叫いて見ます。

上手に出来たら子供同志でさせ先生  
先生 子供 第一小節は男兒  
先生 子供 第二小節は女兒といふ風に。

少し上達した場合には、一小節内の分解をして見ます。

之の逆も致します。此の場合にも

先生 子供 アカセントは嚴重に注意致しま

す。拍手で良いと思ひますが適當な大きさの積木が數多くある場合にはカスタネットの代りに使

はせます。子供はリズムの面白さと想像の面白さにひかれて五分一七八分は樂に興味を持續致します。勿論この遊びの途中では先生はたゞ楽しい狸の腹つぶみのイメージを子供に與へなければなりません。

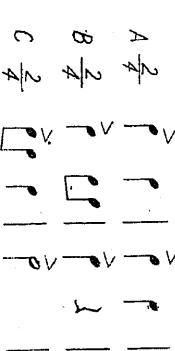
お天氣の良い日にはお庭に出て圓陣を作り音で足拍子をも加へて遊びます。

尚、之を度々繰り返して充分身についたら又皆でリズムを考へて變つたのを致します。子供は隨分樂しい複雑なりズムを考へ出します。符點のついたので、子供は充分になしますから、子供の考へ出したリズムを先生が整理して皆で遊びますと一層樂しいと思ひます。

なれたらリーダーも子供の中から選んでさせます。リズム遊びは本當に大人も子供も樂しいのです。(岩本とよ)

### リズム遊の細目

#### 教材



方 法 樂器(ピアノ、タンブリン、ミヘルス、太鼓)を用ひず

保姆と子供對にて速座に出来る方法のみを記す。

(1) 保母の周りに子供を集め腰かけた儘にてする範圍のもの(1) 遊戯室の様な廣い場所にて歩いたりする方法、先生がお手をたゝきますから其の通りして御覺なさいと豫め云ひはじめると



A B の方法を適宜用ひてなす

- {  
一 強部は大きく拍手弱部は小さく拍手  
二 強部は大きく拍手、弱部は片手握つて打つ  
三、強部は大きく拍手、弱部は片手二本指にて打

(1) 歩く、強部は右足(便宜上)にて床を強く打つ(ふむ)弱部は左足を右足にそぐ揃へる。



(1) 拍手 A の拍手と同じ

休みの所は両手胸に組みやすむ



口と拍手 パン パン パン ————— ハハ

口にて唱へり、拍手なし休みは両手胸に  
首……強部は首上に

弱部は首前に

休みは中央に真直に

(1) 歩く A の (1) と同じ

跳躍 一、強部は両足一緒に其場にて跳躍弱部で足踏

み、休みは動かず

二、強部は両足一緒に跳躍、弱部はチンチン

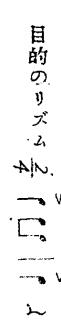


C 2

今度は皆さんへ、一緒にお聲も出してビヨン／＼五つ下さい

雨が降つて居ますね。静かにしてお外を見てゐませう。雨が可  
愛い、おうたを歌つてゐますでせう。チップタップ、云ふのは雨  
だれさんね、「雨が降つて、うれしいな。」

雨だれさんのお家では、これから皆で、「お散歩です。」「さあ、皆  
んな早くおいで」お父さん雨だれが、一番始めに、元氣よく  
ピヨン、とお屋根から飛び下りました。つづいて仲よし兄弟の  
雨だれが、ピヨン／＼と終りに、やさしいお母さん雨だれが、ピ  
ヨン。ピアノで、おまねをして見ませうか(前記の「ズムズムを彈く」)  
面白いです、もう一度きかせませうか(ピアノくり返し)。



誘導

目的のリズム

AB の方法を適宜用ひてなす  
目的 以上の三つの教材中二つを組み合せて(例へば A、B、C、AC)以上に示せる各種の方法にて數回なす、又 ABC を  
続けてなす事も致しました。  
但し、幼兒はあきやすい爲精々五分内で終らせます、又順次  
教材を變へて致します。  
效果 眼を見張り耳を傾けて注意集注して喜々と行ひ其上リズム  
に對し敏感になります。

(二)木富美子)

「雨だれ」

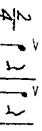
ね



(子供達と一緒に拍手をする)

お父さん雨だれは 大きいから 大きい音で 子供の雨だれは  
小さいから 小さい音で もうお母さん雨だれも 大きく元気に ね  
(数回繰り返して練習 その間 拍手、又はおにぎりで机等を打ち、又は 打楽器等を使用してもよい、要はアクセントを明瞭に打つ事)。

お上手に よくそろつた 雨だれさん、今度はね、い、氣持になつて お歌を うたひ始めました こんな歌 今の様に拍子を取つてきいて下さいね(ピアノにて雨の歌を弾く 杉山米子作詞・小松耕輔作曲の「雨」がよろしい様に思はれます、段々に指導者が歌つて彈くと 子供達も やさしい歌詩ですのですぐ まねて 歌ひ始めますから歌ひながらリズムを取らせます。すると、リズムはとかくみだれて来て



と強部のみを打ちやすくなりますが赤ちゃんを迷子にしては可哀さうで で休がすよと注意します。又 たら、  
で一家族と云ふ事を話しぬがつてしまはぬ様に、注意をあたへ、又方法としては、その所で手を横に拂ふとか、うなづくとか、他の動作を入れると明に、休止できると思ひます。

(酒井信子)

### リズム遊び 指導案

○圓を書いて、園児指導者とも圓周上に坐る。

○話から入れてゆく(雨の日ならばなほ都合がよいと思ふ)  
○使用リズム



○太鼓・積木・金だらひなど手近のたゞいて音のするものを用意してなく。

元氣な坊ちゃんですよ、お名前は武夫さん。

幼稚園の生徒さんです。朝元氣に跳び起きましたお窓の外の木もお隣の弘子さんのお家の屋根もぬれて光つてゐます。「アツ雨だ。」と云ひながらお窓を開けて空の方をよく見ます。細い細い雨が降

山降つて來ます。しとしと靜にとても靜に。「靜かな雨だなあ。」

(拍手で弱くリズムをとる。二、三回でよい。)

「オヤ……」武夫さんが何かしらと思つて探しめたら弘子さんのお家のお屋根から雨だれがおちて石にぶつかる音だつたのです。(拍手で強くリズムを二、三度繰返す)

「雨だれだ。面白いなあ」

數回元氣よく云ひながら強く拍手でリズムをとる。

「面白いな雨だれは太鼓みたいだ。そうだ雨だれは太鼓の音だ。太鼓をたゝく兵隊だ。こうやつて皆さんも一緒にたゝきませう。元氣よく

手と一緒に前で上下する。云ひながら數回太鼓をたゝく氣持で、

大太鼓はタン(強い聲で)小太鼓はタンタ  
(弱い聲で)あまだれ兵隊元氣に……  
園児も口でリズムをとりながら指導者の大小と聲の強弱で區別して前同様太鼓をたゝく動作を指導者が示した上で、園児に續けて繰返させる。

あまだれ兵隊は元氣に歩きますね。皆さんも太鼓に合せて元氣に歩きませうね。……

指導者圓内に入り、皆を立たせ圓周にそつて向かせる。そして

手は前同様太鼓をたゝく動作をなし足は左・(強)右・(弱)左・(弱)右・(強)左。(弱)休んで右・左右……リズムに合せて前に出して歩く。指導者が少し歩いてみせゆつくり數回繰返しなれて來た時に普通の速度にする

今度は拍手に合せて……拍手でリズムをとり前同様歩かせ其他いろ／＼音の種類をかへてあきるまで遊ぶ積木に合せて歩きませう(その他いろいろ／＼變へて)

さあ雨がやみました。……(リズムをとるのをふとやめてあまだれ兵隊はみんな地面にもぐつて消えてしました。又一緒に遊びませうね。)(小島七重)

## 告會 八月號休刊

本誌八月號は休刊し、九月に於て、八・九  
兩月號を合冊發刊いたします。

昭和十七年七月

日本幼稚園協會

# 兒 童 心 理 學 (第六講)

牛 島 義 友

## 精神發達の段階

前回は精神發達の各段階に於ける主要な特徴や方向を説いたが、更に細かく觀るに色々な機能上の變化がある。乳幼児期のみを見ても感覺や知覺の變化、運動機能の發達、言語の習得等に夫々著しいものがある。

味覺や溫度感覺は非常に早くから働いてゐるが、併し生

後二三日の所では苦いキーネを平氣で呑込んだりする。物が見える様になるには大分時間がかかり、積極的に目で追つたりするには少くも一ヶ月かかる。音の方に頭を向けるのは満二ヶ月後でなければ出來ず、更に見た物の方へ手を伸して掴むのは五ヶ月後である。或は這ふ事によつて生活空間が擴大するのは八、九ヶ月頃であり、歩ける様になるのは一年三ヶ月頃である。其他言語の發達にも大體順序があつて満四ヶ月頃までに一通り習熟する。

斯くて乳幼児の時代は徐々ではあるが毎日少し成長してゐて、何時の間にか無言の赤ん坊がおしゃべりで、色々言葉の付く、賢い子供になつてゐる。斯る精神發達には一定の順序があり、何歳頃はさの程度の状態であるとの基準がある。故にこの基準に照して我子の成長を眺めるに興味があり、かつ發育上の障礙等を早期に發見して適當な處置を講ずる参考になる。

茲では筆者達が「乳幼児精神發達検査」を簡易化した簡易検査を示す事にしよう。此の簡易検査は母親達でも容易に使用出来る様に工夫したもので各年(月)齢に二問苑あり、何ヶ月(年)分までの問題が出来るかを調べる事によつて、其の精神發達年齢を推定するものである。年齢は凡て満歳である。

### 満一ヶ月未満兒

#### 1 輕い音で靜かになる。

子供が不快になつてゐる時にガラ～を鳴らす。子供が静かになつたり、音の止んだ時に静かにしてをればよい。

2 妨害的接觸を避ける運動 編で子供の鼻を拭こうとする。頭を動かして避けよう。したり、或は触れた事により、突然運動が止つたり、反対に激しくなればよい。

### 一ヶ月児

3 動く毛糸を凝視する。

子供の目の前で赤い毛糸を静かに動かす。子供の目がそれに従つて一往復すればよい。

4 體を起した時に頭を真直に保つ。子供の頭と肩を支へ乍ら起し、静かに頭の支を取る。子供が二三秒間頭を真直に保つてをねばよい。

### 二ヶ月児

5 音の方へ頭を向ける。

6 他人に對し笑つたり囁語して答へる。子供をやしてやる。笑つたりウ、シ～と言へばよい。

### 三ヶ月児

7 腹這ひの姿勢で頭と肩を上げること。頭を一寸上げるだけなら一ヶ月未満児でも出来るが、此の月では肩まで上げ得ねばならない。

8 ガラガラを手に攢んでゐること。手にござらせることが直ぐに落さないで、しつかり握つてをねばよい。

### 四ヶ月児

9 仰向きの姿勢で支へられた際に頭と肩を持上げる。子供の上體を少し起し、平手で子供の背中を支へてをる。斯る姿勢の時に、もつと起き上らうとして體を持上げよう。努力すればよい。

10 室内を歩く人を眼で追ふ。

### 五ヶ月児

11 跳めたものをして撫む。

12 仰向きの姿勢で、邪魔になる掩布を取り除くこと、子供の髪の上に布をかけ、それを取らせる。

### 六ヶ月児

13 仰向きから身を轉ずる。

14 るないるないばあーを面白がる。

### 七ヶ月児

15 一人で坐つてゐること、三十秒間坐つてをねばよい。模倣して机を叩くこと、母が机を手でゆつくり何度も叩く、子供が其の真似をして叩く様になればよい。

### 八、九ヶ月児

16 二つの匙を打合せること、二つの匙を先づ打合はせ

17 這ふこと

18 二つの匙を打合せること、二つの匙を先づ打合はせ

て見せ、次に子供に匙を渡し、同様に打合せよう。

すればよい。

二歳児 い。

- 19 十一ヶ月児  
二語を話すこと、「ママー、カーチャン等二語以上  
しゃべれば言語発達は良好。

- 20 包まれた玩具を取り出す。子供の玩具を取上げて、

子供の前に置き其の上に風呂敷をかける。子供がそれを取除いて玩具を取つたり、布の下から取出さう  
くすればよい。

満一歳児

一人で立つこと

21 一人で立つこと

要求を理解すること、「たつち」「ねんね」「おいで」の三つの命令に夫々従へばよい。

一歳三ヶ月児

一人で歩くこと

23 一人で歩くこと  
24 錯畫 紙にクレヨンで錯畫を描いてみせ、子供が模倣して描けばよい。

25 一つの命令 二米先の机の上の本を指し、あの本を持つて来て頂戴と言ひ、其の通りに實行すれば合格。

一歳六ヶ月児

26 一つの命令 二米先の机の上の本を指し、あの本を持つて来て頂戴と言ひ、其の通りに實行すれば合格。

母ちゃんはさうの質問に對して繪を指示すればよ

三歳児

い。

27

位置關係の理解 小さな積木と箱を用意し、「この積木を箱の上に置きなさい」と言つて、其の通りにさせよ。其の他後、前、下、中等を言ひ、此の五つの中

二つを正しく理解したら合格。

28

四個の嵌め板 元は特別の用具を使用しなければならないが、四角、三角、半圓、十字形の小片をそれらを嵌める盤があり、元を嵌めさせる。三分以内に三箇出来れば合格。

三歳児

29

常識問題 「お腹の空いた時にはどうしますか」「眠たい時にはどうしますか」の質問に對して「御飯をたべる。お菓子を食ふ。「食べる」或は「ねる、ふさん出してねる」等の答のものは合格。

30

積木の模倣 三個の積木で十字架を作つてみせ、「さあこれで同じものを作つて下さい」と言つて壊してしまふ。子供が



ればよい。手本の形は次の二つである。

以上の如く満三歳までの検査問題を示しておいた。尙ほ此の簡易検査は、満七歳児用の問題まであるので學齡前児全體を調べる事が出来る。詳細は目黒書店から發行する乳幼兒精神發達検査を見てほしいし、用具は國民保育館で發賣してもらふ豫定である。

言語の發達 身邊生活時代に最も注目すべき事は言語の急速な習熟である。満一歳の頃はウマ～～カーチャン位しか言へなかつたのが、満四歳頃になると實に色々な事を話す様になり、其の會話も相當自由に出来る。それは中等學校五年間で修得した英語等より遙かに上手である。智能や記憶力等も未だ極めて低いと思はれてゐる赤ん坊の時代にぐんぐん見え込んでくるのである。而もこれで言ふ教師もなく、組織的教授法等もなしに、謂はゞ獨學でものにしだのである。此の言語學習力に關しては全く幼兒に敬服してしまう。

組織的に教育したのでないから、其の學習狀態だけを組織的に検査するのも片手落な話であるが、此の言語發達を検査する方法が色々と考案されてゐる。子供の語彙や發音或は文について検査出来るが、茲では語彙検査について述べる。外國ではデリードルやスマスの方法が有名であり、吾邦でも石川氏加藤氏等の方法もあるが、筆者が愛育研究

所に於て作製した方法を簡単に紹介する。尙此の検査を實際に用ひようと思つたら、研究報告書(愛育研究所紀要第二輯 幼兒の言語發達 目黒書店發行)を読み、所定の方法で行はねばならない。

此の検査は先づ幼兒の語彙を調べて、如何なる語が如何なる割合で使用されてゐるか明かにし、其の中から代表的な語として次の六十六語を選んだ、之は極めて容易な、幼兒に常に使用される語から、幼兒に之つては相當に難解な語まで含まれてあり、大體六ヶ敷さの順に並べてある。此の語について使用力と理解力を検査する。使用力とは此の検査語を使用するかどうかを調べる。其の方法としては事物或は繪等を示して其の名稱を言はせる様な方法をとる。理解力の方は子供が検査の場合に發語しなくとも、理解だけはしてゐるのか否かを確めるもので、検査者が言葉を言つて、それに應じた繪を指示させる方法をとる。

- |         |         |         |         |          |        |        |
|---------|---------|---------|---------|----------|--------|--------|
| 1 兵隊,   | 2 時針,   | 3 帽子,   | 4 耳,    | 5 鉛筆,    | 6 此處,  | 7 魚,   |
| 8 来る,   | 9 汽車,   | 10 はさみ, | 11 大きい, | 12 好き,   | 13 あれ, |        |
| 14 起きる, | 15 赤,   | 16 私,   | 17 鐵砲,  | 18 かく,   | 19 動く, | 20 水瓜, |
| 21 皿,   | 22 少し,  | 23 煙,   | 24 海,   | 25 女,    | 26 木,  | 27 洗ふ, |
| 29 龜,   | 30 冷い,  | 31 乾く,  | 32 窓,   | 33 怒る,   | 34 走る, | 35 醫者, |
| 36 青,   | 37 後,   | 38 膝,   | 39 飾る,  | 40 莓,    | 41 水兵, | 42 腐る, |
| 44 泥,   | 45 海水浴, | 46 薄い,  | 47 淫い,  | 48 貨物列車, | 49 カ   |        |

ンガル、50馬車、51將棋、52天氣豫報、53蒸、54甲板、  
55漏斗、56昨晚、57おだやか、58蟲干、59しげる、60危  
險、61占領する、62命中する、63煤、64反る、65不親切、  
66洋行する。

此の理解力の平均點は次の如くなる。

満一歳 三歳 四歳 五歳 六歳  
二九・〇四 三三・九六 四六・四九 四九・八六 五〇・八四  
満二歳とは二歳〇ヶ月から十一ヶ月までの者を含む。以  
下同様。

此の數字を見るに二歳から四歳までは急激に増加してを  
るが、其の後は餘り増加しない事を知る。之は元來子供  
の語彙の發達が四歳までは著しく増加し、其の後は徐々に  
しか増加しないために斯る結果が得られたのである。故に  
語彙検査によつて子供の言語發達をみるのは満四歳位まで  
の子供をみるのが適當である。それ以上の子供の言語發達  
を調べるには語彙の點よりも他の點からみるのが適當であ  
る。例へば子供の識がされて正しい發音をしてゐるか否か  
を調べる發音検査とか、語の内容をしらべるもの、例へば  
机ご言ふ語について如何なる觀念内容を有してゐるかを調  
べる定義検査による方がよい。

子供の定義を調べるに五、六歳頃は専ら用途定義をな  
してゐる。例へば机はごはんを食べるもの、字を書くもの、

答へ、電車は走るもの、か乗るもの等と答へる。即ち其の  
物の用途、機能を第一に考へてをる。次の年齢になると用  
途以上に物の構造等を詳細に説明する様になる。即ち机は  
四角くて足が四本あるとか、電車は輪があつてレールの上  
を動くとか、上にボールがある、窓がある等と絆述する様  
になる。ビネーの智能検査法には斯る定義検査によつて知  
能の發達を調べる問題も若干含まれてゐる。

## 保育講習會豫告

恒例の本會夏期講習會は昨年は中止いたしましたが、本  
年は左の通り開催の豫定で目下手續中であります。決定の  
上各幼稚園に詳細御通知申上げます。

時 日、八月一日より四日間  
會 場、東京女子高等師範學校  
申 込、八月一日會場にて  
會 費、金四圓（當日持參）  
(宿泊は時節柄弊宿舍その他お世話出来ません)  
昭和十七年七月

## 月刊「幼兒の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、一昨年  
一月、月刊「幼兒の母」を始めてから、もう三年になります。

毎號甚だ不出來ですが、夫でも廣く各地幼稚園の御贊同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のものですが、毎月一萬數千のお母さんに讀んで貰へるゝ思ふ  
ご、大によろこんでゐます。ほんの四頁ごいふのも、忙しい  
お母さんの立読みにもごいふ、初めからの計畫で、手にされ  
る方は皆、讀んで下さるゝゝ、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつけ願ひますし、新らし  
い方々にもお願ひいたします。尙ほ、今まで毎月「幼兒

教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう  
大體お分り下さいましたご、思ひますし、月々の御申込

みは、皆さんの方にも御手數の多いごですから、半年分  
なり一年分なりまごめて御註文下さるやう願ひます。當方

でも印刷部數の豫めきまつてゐるごが、時節柄必要にな  
りましたのです。それで新らしい幼兒の入園から新たに御

配布の方も多いご思ひますから、四月を始めごして、四、  
五、六、七、ご四ヶ月を一期、九、十、十一、十二、ご四

ヶ月を第二期、一、二、三、四ヶ月を第三期ごしてまごめ  
申込規程

た方が御便利かご思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢(一部金貳錢)

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はお、ごはりします。

一、御註文の節は部數ご何ヶ月分ごいふゝ御送り致

す宛名を特にはつきりお書き記し下さい。

一、右御註文のお申込みご同時に必ず前金でお拂込み下

さい。本會の振替口座(東京一七一二六六番)をお用ひ

下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石區大塚町東京

女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛。

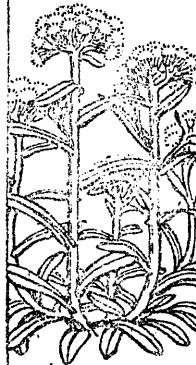
序に甚だ立入つたごのやうですが、御利用の仕組は  
(イ)幼稚園が保護者に無料で配布される場合、(ロ)實費を

保護者銘々の負擔ごなさる場合、(ハ)幼稚園内の保護者會  
或は母の會等が費用の負擔をなさる場合等、その他いろ  
／＼の仕組があらうご思ひます。

充分御利用下さい。

# 大東亞戰爭必勝完遂

幼光の母



昭和十七年

七月

幼稚園から

## 夏の子

暑いからとてぐんにやりするのは、おどなのことです。それも、

おどなからだが弱つてあるといふよりも、暑い／＼と、暑いことを氣にするからです。暑さに氣まけするからです。

かん／＼と照りつける日光の下に、ぐん／＼生育してゆく、あの強い草の緑を見ませう。まぶしげさへなく、パッと大きく咲き開いてゐる濃黄や深紅の花を見ませう。否々、そんな詩のやうなことをいふまでもなく、この子ども達を見ませう。すくと立つてゐる草の葉よりも、大輪を開いてゐる草の花よりも、びし／＼と張り切つてゐるのは夏の子です。

私の心の目の前に、あの南方の子ども等の暑熱に勝つ姿が浮んで來ました。そしてあれは外國ではなくて、日本なのです。日本の夏は今までの夏ではなくなりました。あの子ども等が平氣に遊んでゐる、あれが日本の夏であつてみれば、こゝのは、ほんの涼しい夏かも知れません。

こんなことを考へるまでもありません。子どもは、その興へられた夏に育てられて、勢のいゝ夏の子になるのです。夏に育てる子にしますまい。そんな弱い子にしますまい。

○何分にもお暑さ。お子さんにお障りないやうに。お障りといへば、おなかを害されることが一番多いやうですが、その原因は、いろいろあります。が、この節お墓子のたべ過ぎもないこととして、寝びえが一番多いやうですね。

○ところで、夏の注意として、寝びえをしないやうにと、お子さんに申渡す人があります。これはどうも無理な話です。熟睡の子に、そんなこと氣をつけてもあられませんし、寝びえするといけないから腹巻をさせて下さいなんて、そんなこといふやうでも困ります。そこで、お母さんの方の手ぬかりとしかいへませんですね。

○たゞ物から來ることだつて、お母さんの不注意を原因とするばかりません。児童の養生家なんて、却つて困つて仕舞ふじやありませんか。さあ此の一と夏。お母さんの試験ですよ。

## 夏の幼児の家庭生活

倉橋惣三

本榮子供向お菜  
厚生科學研究所  
國民榮養部 佐々木理喜子

□この頃は、學校でも幼稚園でも、夏、やすみといった言葉を使ひません。國がいくさをしてる最中、兵隊さんが毎日あんなに骨を折つてゐて下さるのに、や、すみなんて、口にいへた言葉ではあります。そこで、從來の夏季休暇でなく、夏の家庭生活を、どういふ風に積極的に工夫しやうかといふことになります。

□こどしなぎは、ぶらりと避暑にゆく人も、病人が何かない限り、たんとありますまい。勿論、この時こそ、海の季節として、山の季節として、それとも鍛錬のために青年が出かけ、子どもがつれてゆかれるのは、意義のあることで、冬では海で泳がれないですから、この夏こそ其の大切な季節ともいへます。しかし、それは體練であつて避暑休暇ではありません。

□水泳の練習は水がなくては出来ません。疊の上では出来ませんが、その他の體練は、家庭生活のうちでも出来ます。夏に負けて、ぐづぐづしてゐて、健康まで害する。切角く幼稚園でやいた顔色が蒼じろくはげるといったことはなりません。殊に、だらくと、だらしない朝夕を送らせて、平生の饅が飴のやうに溶けて仕舞つたりしてはなりません。からだも心も、だらけてはなりません。

□何よりも朝の早起きが第一です。毎日きまつた時間に起きる習慣をつけることです。それには、夜更かしが最大の禁物で、そこから規則正しくしてゆかなければなりませんが、朝をちゃんとすることは、前夜どうであらうと守ることが必要です。そうすれば、夜も自然早寝になります。晝寝も、幼稚園の年齢ではいりません。

□水泳の練習は水がなくては出来ません。疊は色々の食べ物が腐敗し易く、保健上に不都合のみでなく、貴重な食品を失ひますので、特に御注意下さい。魚等は生物より乾物を用ひ、出廻つていまます身缺鱗を用ひてみました。

【一】サンドウイッチ  
材料 身缺鱗一五瓦 玉葱二〇瓦 胡瓜四〇瓦 ピーナツバタ五瓦、蛋白八・三瓦 温量一〇四カロリー、別に食パン $\frac{1}{4}$ 斤、作り方 身缺鱗のよく乾いたものをきれいにして、髪節削りで薄く身を削ります。煮立つた少量のお湯に入れて軟くし、砂糖、醤油で薄味をつけます。玉葱は細く刻み少量の油で炒め、醤胡椒(少量)で味付けます。此の中へ、ピーナツバタを練を入れて程よくのばし、食パンの間に平に塗りつけてはさみます。別に胡瓜は

すまい。それより、夜早く寝かすことです。そうして、朝起きが一番です。

□冷い水で顔を洗はせるのは勿論、全

身をこしら拭いてやりませう。皮膚が

あかみざすまで、こすつてやりませう。

そうして、毎日さつぱりした清潔の下着

にかへてやりませう。そうして、朝飯の

時間を、きちんととぎめて、三度の食事の

中でも一番愉快な位にしてやりませう。

御馳走はとにかく、きれいな食卓、出来

ることなら、一輪でもいゝ草花を飾りま

す。「兵隊さん有り難う、いたどきます」

を忘れず。

□わたしは斯うして、夏の幼児の家庭

生活では、朝を一番大切にしたいのです。

朝さへ、規則正しく、氣もちよく、

きちんこ出來れば、それで鍛錬の生活が、

そこから出發させられます。朝がみだれ

ては一日中だめです。ところで、平生は

幼稚園の時間があつて、朝が家庭的に何

んどなく慌しい、それが、落ちついて、ゆつたりと、朝の一と時を正しく出来る

のこそ、夏の間の好機会です。

□それから、午前中の朝すゞを利用し、いろいろの鍛錬の工夫も出来ませう。

それからあとは、何しろ暑くなり、とにかくも自由な時間です。そう、きちん

くともいきますまい。たゞ、朝だけは

うんと、しつかりしたいのです。但し、

それには、家中がそうならないければなり

ません。子どもだけをといふ譯にはいき

ません。殊に、お母さんが、さきに立た

なくしては出来ません。

□春は春、秋は秋、冬は冬、それぐら

季節がさせる教育があります。夏は殊

に子どものための教育季節のやうなもの

です。そして子ども時代の夏といつて、

どう何十べんもあるもので、もありません

えん。折角この此のいい機會を、むだにさ

せますまい。況してや、有害であつたり

させますまい。子どもを積極的に活

用すること、これこそ、家庭の一つの任

務といつたものです。

廣い南海が日本になつた今年の夏。大

き圓子と桃の煮たのを形よく浮かせます。

板すりして薄く刻み、普通の様にパンに

はさみます。バタの代りにピーナツバタ

を用ひます。

### 【二】トマトライス

材料 身缺錬一五瓦 玉葱三〇瓦 人參

二〇瓦 トマトソース三〇瓦 油三瓦

蛋白質八・二瓦 溫量一〇五カロリー

作り方 御飯を炊く時にトマトソースを

加へて水加減し、途中二回位焦げぬ様に

釜底からかきませう。人參と玉葱は細

く刻み、油で炒め鹽、胡椒で味付け、此

の中へ、(一)の様に薄く削つた身缺錬を

入れて、よく煮ます。少し濃く味を附け

て、出来上つた御飯に混ぜます。

### 【三】桃と白玉(間食)

材料 桃(天津)五〇瓦 白玉粉二〇瓦

砂糖一五瓦 溫量一三八カロリー

作り方 天津の固いのを利用します。皮

と種子を取り、一分位に程よく切り、軟

く煮ます。砂糖を加へて汁を甘くし冷く

致します。深目のガラス皿に盛り、白玉

## 七月の衛生 醫學博士 斎藤文雄

□梅雨も漸く晴れあがつて愈々男性的な遅ましい夏が訪れて参りました。夏の幼稚園、大抵お兄さんやお姉さん方と同じ様に二十日頃迄は續けられる事であります。が、この間にどんな注意が必要でせうか。

□一年の計は元旦にありと申しますが、子供の一年の保健は先づ夏にありと云ひ度いのです。夏は比較的樂に、しかも積極的に鍛へてゆくに最も便利な時です。着物も餘り着ませんから皮膚はよく日に照らされます。よく風に吹かれます。日に照らされる事が何故良いかといふ事はよく御存知でせうが風に吹かれる事も同じ様に大切な事を知らない方があります。皮膚が風に曝されるといふ事は皮膚の神經が暑さ寒さに對して直ぐ対策をたてる事が上手になるといふ事なのであります。ひいては體温の調節が上手になる、風邪もひかぬといふ事なのです。昔から「子供は風の子」と申しますが昔の人はうまい事をいつたものです。

□このごろの日光の紫外線は澤山あります。温度が高ければ紫外線の効果も多くなります。七月は直射光線に當てなくとも、木陰にあっても紫外線は貰ふ事が出来ますから、餘り日常に長く曝してはいけません。

□寝冷えの注意等今更取り上げなければならぬ程ほんやりしてゐる親達はないでせう。然しお腹娶しには出鱗目な喰べさせ方が大變よくないといふ事は外気にしていない母親が居ります。夏は夕食後等決して物を喰べさせてはいけません。それから御飯の時にやたらに水をがぶがぶ呑ませるのもよくありません。胃が荒れて食慾がなくなる事請合です。殊に水等で冷した水は大變胃を荒します。

□暑い日はお午睡をさせませう。午睡は身體の休養に大變必要であります。決して怠けさせるのではありません。しかしら休養と申しましても餘り長い間午睡をさせてはいけません。夜更かしの悪い癖がつかぬとも限りませんから情々

一時間位にいたします。時間はやつぱり日盛りの頃、午後一時二時頃が良いのです。

□よく蜻蛉を取つて遊ぶ方がありますね。蜻蛉は益蟲であるといふ事をお母さん達は知らないのでせうか。加賀の千代女が「蜻蛉つり今日はど」まで行つたやうと申しました頃は益蟲も害蟲もわからなかつた時代です。昭和のお母さんは、加賀の千代女である必要は無いのです。子供だから益蟲を殺してよいといふ様な事は許されない事です。寧ろ小中にこそ教へ込んでおきませう。その代り蟬がゐます。蟬ならいくら取つても構ひませんでせう。尤もこれは蟬には内密です。

□都會の子では夏休み前には毎年海か山かと云ふ事が問題になります。これは一概に申せませんが、兎に角轉地といふものゝ效果は環境がすつかり變化するといふ所に值打があるのであります。都會の子なら單に田舎へ行つたといふだけでも、もう充分に効果があるのです。

×      ×      ×

日本幼稚園協会編輯 幼児の教育

會長

東京女子高等師範學校長

下村壽一

主幹

東京女子高等師範學校教授  
附屬幼稚園主任事務

倉橋惣三

日本幼稚園協会規則

第一條 本會へ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖

ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園

ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ關志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾

五錢ヲ納出スヘシ。會員ハ無料ニテ本

會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業

ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 今聞名望アル人ニシテ本會ノ事

業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒ

テ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本

會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、

モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアル

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
會長 一名 倉橋惣三  
主幹 一名 附屬幼稚園主任事務  
評議員 若干名 附屬幼稚園會務ヲ分掌ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推戴スルモノトス  
評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ  
會長ノ諮詢ニ應ス  
主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス  
幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ月年  
期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス  
第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ  
第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵稅共)で願ひます。(郵券代用の場合は總て割増)

一、御送金の場合はなるべく振替時間で振替口座に願ひます。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差し出せん特に御入用の方は往復はがきで御申越します。

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せらるべく御送金の場合はなるべく振替時間で振替口座に願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合は往復はがきで御申越します。

一、会費切符は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押いたしますから其筋は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發

不許複製

幼兒の教育

昭和十七年六月二十八日印刷納本  
第42卷 第7號

昭和十七年七月一日發行

(外國行郵稅一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

價定	一ヶ月分	金參拾五錢	廣告社に御申込下さい
一六半ヶ月年分	金四圓貳拾圓	金拾五圓	神田區一ツ橋三七品田
一冊年分	金貳拾圓	金拾五圓	御断り
冊送	料	料	料

(昭和四年五月十五日第三種郵便物認可)

(昭和十七年六月二十八日印刷納本)

停 定價 參拾五錢

# キンダーブック改題 ◇月刊幼兒繪雜誌◇ 繪本観察ミクニノコドモ

お子たちの保育に——時代は要望する

幼稚園に託児所に家庭に、幼児保育の重要な一役を擔ふ繪本を。

明るい面白さで、正確で健全な繪本を「強い日本」の「強い子ども」の爲に。

大東亞共榮圈確立の逞しい指導的意慾を盛つた、力強い繪雜誌ミクニノコドモを。



毎月二十七日全國書店一齊發賣

一冊 定價 金三十五錢

倉橋惣三先生、岸邊福雄先生、清水良雄先生、西條八十先生、小松耕輔先生、三田谷啓先生、西村眞琴先生、及川ふみ先生、小川正道先生、和田實先生、高峰能樹先生、土川五郎先生、久保良英先生、久留島武彦先生、赤羽吉子先生、關寛之先生其他十數氏。

## 株式會社 日本保育館

番二六六三(33) 話電 四・二町保神・田神・京東 社本  
番七二八三(24) 話電 六二・五町後備・區東・阪大 所張出  
番八三九一(24) 話電